

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係			
旧約聖書原典講読Ⅰ a		左近 豊	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 旧約聖書ヒブル語本文を批判的手続きを経ながら読むことを主眼とします。			
＜到達目標＞ テキストの文献学的諸問題、そして文芸学的特長を把握することができるようになることを目標とします。			
＜授業の概要＞ エレミヤ書と哀歌を取り上げます。それぞれに旧約の民の歩みの重要な局面で語られた言葉であり、旧約聖書の人間観、世界観、そして歴史観を反映しています。写本、古代訳を参照しつつヒブル語本文を読み、教会での説教、聖書研究における釈義に資する諸資料の紹介と活用を実際を学びます。			
＜履修条件＞ ヒブル語文法履修者			
＜授業計画＞ 第1回：エレミヤ書 序 2:1-3 第2回：エレミヤ書 2:4-6 第3回：エレミヤ書 2:7-9 第4回：エレミヤ書 2:10-13 第5回：エレミヤ書 2:14-16 第6回：エレミヤ書 2:17-19 第7回：エレミヤ書 2:17-19 第8回：エレミヤ書 2:20-22 第9回：エレミヤ書 2:23-25 第10回：エレミヤ書 2:26-28 第11回：エレミヤ書 2:29-32 第12回：哀歌 1:12－14 第13回：哀歌 1:15－17 第14回：哀歌 1:18－20 第15回：哀歌 1:21－22			
＜準備学習等の指示＞ 事前に当該箇所の釈義上の諸問題を把握し、神学的思索を携えて授業に臨むことが望ましい。			
＜テキスト＞ Biblia Hebraica Stuttgartensia (BHS)			
＜参考書・参考資料等＞ 辞書:F.Brown, S.R.Driver, and C.A.Briggs eds., <i>Hebrew and English Lexicon of the Old Testament</i> . (BDB)、L. Koehler and W.Baumgartner, <i>The Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament (HALOT)</i> 、 文法書: <i>Gesenius' Hebrew Grammar</i> 、B.Waltke and M.O'Connor, <i>An Introduction to Biblical Hebrew Syntax</i> 、 H.Bauer and P.Leander, <i>Historische Grammatik der hebraeischen Sprache</i> . 参考書:ヴェルトヴァイン著『旧約聖書の本文研究』、E.Tov, <i>Textual Criticism of the Hebrew Bible</i> 、『左近淑著作集Ⅲ』、Field, <i>Origenis Hexapla</i> コンコルダンス:Lisowsky, <i>Konkordanz zum Hebraeischen Alten Testament</i> 、 S.Mandelkern, <i>Veteris Testamenti concordantiae hebraicae atque chaldaicae</i> 、E.Hatch and H.A.Redpath, <i>A Concordance to the Septuagint and the other Greek Versions of the Old Testament</i> (LXX) など			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業参加 40% 期末レポート 60%			

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係			
旧約聖書原典講読Ⅱ a		小友 聡	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> ヒブル語の基礎文法を理解した上で、ヨブ記の最初の部分を講読する。			
<到達目標> ヒブル語の基礎を理解し、辞書を用いて、独力でヒブル語本文を直訳できるようにする。			
<授業の概要> BHS を用い、ヨブ記 1－2 章を読む。			
<履修条件> ヒブル語文法を未履修であっても、アルファベットが分かり、基礎文法をだいたい理解できる人。			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 ヘブライ語辞典の使い方 第3回 ヨブ記 1 章 1－3 節の講読 第4回 同 1 章 4－6 節の講読 第5回 同 1 章 7－9 節の講読 第6回 同 1 章 10－12 節の講読 第7回 同 1 章 13－15 節の講読 第8回 同 1 章 16－18 節の講読 第9回 同 1 章 19－21 節の講読 第10回 同 2 章 1－3 節の講読 第11回 同 2 章 4－6 節の講読 第12回 同 2 章 7－9 節の講読 第13回 同 2 章 10－13 節の講読 第14回 同 3 章 1－3 節の講読 第15回 同 3 章 4－6 節の講読			
<準備学習等の指示> 毎回、予習をして事業に臨むこと。			
<テキスト> Biblia Hebraica Stuttgartensia (BHS)			
<参考書・参考資料等> 辞書は、F.Brown, S.R.Driver, and C.A.Briggs, Hebrew and English Lexicon of the Old Testament (BDB)を用いる。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加度、積極性で評価する。			

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係			
旧約聖書原典釈義Ⅱ a		本間 敏雄	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 創世記 16, 17 章、アブラハム物語中のハガル・イシュマエル物語とアブラハム契約（割礼）物語をヒブル語原典（マソラ本文）において釈義する。			
＜到達目標＞ 当該テキストの文脈、段落構成、ヒブル語本文の語分析と構文分析によりテキストを本文学的に釈義し、伝承史等釈義の基礎的方法論を修得する。現代の代表的印刷聖書BHS及びBHQ本文とマソラ情報の特質を理解し、それぞれの脚注の内容判断と背景洞察、本文学的評価ができる。レニングラード写本（Codex Leningradensis）を読むことができ、写本文の基礎的特質をマソラと共に理解しつつ聖書学的テキスト解釈ができる。			
＜授業の概要＞ 創世記 16, 17 章のハガル・イシュマエル物語とアブラハム契約（割礼）物語をヒブル語原典（レニングラード写本L）において読み、写本文の特質とマソラを概説（写本（マソラ本文）の諸現象と釈義との関係性等）。ヒブル語本文の語分析と構文分析、本文批判、文献批判、形態史、伝承史等の釈義的諸方法を検討しつつ釈義し、当該諸テキストの「生活の座」（Sitz im Leben）と「テキストの神学」理解を試みる。現代の印刷聖書本文と脚注の特質を学び、諸欧文、諸邦訳との関係と問題性も把握したい。イシュマエル/イサク物語は長い歴史を経て現代のアラブ/イスラエル問題、「神の民」とは何者か、その選びに通底する重要な問題であり、また「神の民」のしるしとされる「割礼」とは何か。学びと討議を通して思索を深めたい。後期課程「旧約聖書原典特殊研究 a」と合同。			
＜履修条件＞ヒブル語基礎文法修得者。			
＜授業計画＞ 第1回 16：1 オリエンテーション、アブラハム、ハガル・イシュマエル物語 第2回 16：2, 3 サライの不妊 第3回 16：4－6 サライとハガルの確執 第4回 16：7－10 荒れ野の泉で 第5回 16：11－12 御使いの託宣 第6回 16：13－16 ベエル・ラハイ・ロイ、イシュマエル命名 第7回 五書研究史（資料説等）とアブラハム物語 第8回 17：1－3 エル・シャダイ顕現 第9回 17：4－8 契約：アブラハム改名、子孫・土地 第10回 17：9－14 契約のしるし：割礼 第11回 17：15－16 サラ改名 第12回 17：17－19 アブラハムの笑い、イサク誕生契約予告 第13回 17：20－22 約束：イシュマエルとイサク 第14回 17：23－27 割礼実施 第15回 総括（聖書学的、神学的）			
＜準備学習等の指示＞ ヒブル語本文を BHS により記し、辞書作業により各節毎に文意を考察する。なお諸翻訳における相違と本文理解を考察し、当該本文を「ヒブル語入門」（下記）特に 10 文の構造（構文論）において調査すると釈義的問題点を把握し易い。			
＜テキスト＞ Biblia Hebraica Stuttgartensia（BHS）：Genseisis、Biblia Hebraica Quinta（BHQ）：Genesis、レニングラード写本（Codex Leningradensis）写真版。「ヒブル語入門」（改訂増補版 左近/本間）（10 文の構造（構文論）、12 補説：本文の諸現象（補注一覧））。			
＜参考書・参考資料等＞ 「旧約聖書釈義入門」（H.バルト／O.H.シュテック 山我哲雄訳）。「ヘブライ語聖書への手引き」（R.ウォンネベルガー 松田伊作訳）、A simplified guide to BHS (H.P.Rueger)。「旧約聖書の本文研究」（E.ヴェルトヴァイン 鍋谷／本間共訳）。C.ゲェスタマン「創世記Ⅰ」（山我哲雄訳）、Von Rad, Genesis(ATD)。諸文献、資料は順次提示。なおヒブル語本文と諸翻訳の関連の実例については「翻訳と本文」（1）～（34）『形成』273～315 号所収。1993.9/10－1997.3）。（マソラ本専門的資料→特研）。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 予習状況と課題発表、討議、レポート（本文 7000 字以上）の総合で評価する。			

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係		
旧約聖書原典釈義Ⅱ b	本間 敏雄	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<授業のテーマ> 創世記 18, 19 章、アブラハム物語中のイサク誕生予告、ソドム・ロト物語をヒブル語原典（マソラ本文）において釈義する。		
<到達目標> 当該テキストの文脈、段落構成、ヒブル語本文の語分析と構文分析によりテキストを本文学的に釈義し、伝承史等釈義の基礎的方法論を修得する。現代の代表的印刷聖書 BHS 及び B HQ 本文とマソラ情報の特質を理解し、それぞれの脚注の内容判断と背景洞察、本文学的評価ができる。レニングラード写本（Codex Leningradensis）を読むことができ、写本文の基礎的特質をマソラと共に理解しつつ聖書学的テキスト解釈ができる。		
<授業の概要> 創世記 18, 19 章のイサク誕生予告とソドム・ロト物語をヒブル語原典（レニングラード写本 L）において読み、写本文本文の特質とマソラを概説（写本（マソラ本文）の諸現象と釈義との関係性等）。ヒブル語本文の語分析と構文分析、本文批判、文献批判、形態史、伝承史等の釈義的諸方法を検討しつつ釈義し、当該諸テキストの「生活の座」（Sitz im Leben）と「テキストの神学」理解を試みる。現代の印刷聖書本文と脚注の特質を学び、諸欧文、諸邦訳との関係と問題性も把握したい。イシュマエル/イサク物語、ソドム物語は現代のアラブ/イスラエル問題、「神の民」とは何者か、その選びと課題に通底する重要な問題であり、学びと討議を通して思索を深めたい。後期課程「旧約聖書原典特殊研究 b」で合同。		
<履修条件>ヒブル語基礎文法修得者。		
<授業計画> 第1回 18：1－3 3人の旅人 第2回 18：4－8 アブラハムの接待 第3回 18：9－12 旅人の約束とサラの笑い 第4回 18：13－15 主の約束とサラの恐れ 第5回 18：16－21 ソドムとゴモラ：裁きの計画 第6回 18：22－26 アブラハムの執り成し：赦しと正義 第7回 18：27－33 執り成し（2）：赦しと問い 第8回 マソラ本文形成の歴史：マソラ本文の諸現象 第9回 19：1－3 2人の御使い、ロトの接待 第10回 19：4－9 ソドムの男たち 第11回 19：10－14 ロトの娘婿たち 第12回 19：15－22 ロトの妻と娘たち：ツォアル 第13回 19：23－29 ソドムとゴモラの滅亡 第14回 19：30－38 ロトの娘たちと子孫：モアブとアンモン 第15回 総括（聖書学的、神学的）		
<準備学習等の指示> ヒブル語本文を BHS により記し、辞書作業により各節毎に文意を考察。なお諸翻訳における相違と本文理解を考察し、当該本文を「ヒブル語入門」（下記）特に 10 文の構造（構文論）において調査すると釈義の問題点を把握し易い。		
<テキスト> Biblia Hebraica Stuttgartensia (BHS) : Genseisis、Biblia Hebraica Quinta (BHQ) : Genesis、レニングラード写本 (Codex Leningradensis) 写真版。「ヒブル語入門」（改訂増補版 左近/本間）（10 文の構造（構文論）、12 補説：本文の諸現象（補注一覧））。		
<参考書・参考資料等> 「旧約聖書釈義入門」（H.バルト／O.H.シュテック 山我哲雄訳）。「ヘブライ語聖書への手引き」（R.ウォンネベルガー 松田伊作訳）、A simplified guide to BHS (H.P.Rueger)。「旧約聖書の本文研究」（E.ヴェルトヴァイン 鍋谷／本間共訳）。C.グェスタマン「創世記Ⅰ」（山我哲雄訳）、Von Rad, Genesis(ATD)。諸文献、資料は順次提示。なおヒブル語本文と諸翻訳の関連の実例については「翻訳と本文」（1）～（34）（『形成』273～315 号所収. 1993.9/10－1997.3）。（マソラ本専門的資料→特研）。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 予習状況と課題発表、討議、レポート（本文 7000 字以上）の総合で評価する。		

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係			
旧約聖書神学特講Ⅰ a		小友 聡	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> K. シュミット『旧約聖書文学史入門』（山我訳）を講読する。			
<到達目標> 現代ドイツ旧約学の最新の傾向と知見を知る。			
<授業の概要> テキストをじっくり読み、その内容を理解した上で、全員で議論する。			
<履修条件> 最新の旧約学の知見を得たい人、聖書学的な思考を身に着けたい人。			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 A. 「旧約聖書文学史の課題、歴史、諸問題」第1章 第3回 同第2－3章 第4回 B. 「アッシリア到来以前」 第5回 C. 「アッシリア時代の文学」第1章～第3章第2節 第6回 同第3章3－4節 第7回 D. 「バビロニア時代の文学」第1章～第3章2節 第8回 同第3章第3－4節 第9回 E. 「ペルシア時代の文学」第1章～第3章第2節 第10回 同第3章3－4節 第11回 F. 「プトレマイオス朝時代の文学」第1章～第3章1節 第12回 同第3章2－3節 第13回 G. 「セレウコス朝時代の文学」 第14回 H. 「正典化と正典形成」 第15回 まとめ			
<準備学習等の指示> あらかじめテキストを読み、内容を理解する。			
<テキスト> K. シュミット（山我訳）『旧約聖書文学史入門』、教文館、4,500円を用いる。			
<参考書・参考資料等> その都度指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 担当者を決めて、毎回レポートしていただく。その発表内容と学期末のレポート（6000字）で評価する。			

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係			
旧約聖書神学特講Ⅰb		小友 聡	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 故大住雄一先生の旧約学諸論文を読み、その神学的遺産を学ぶ。			
＜到達目標＞ 大住雄一先生が旧約学者として何を考え、何を目指したかを知る。			
＜授業の概要＞ 毎回、大住雄一先生の旧約論文の一つをじっくり読み、全員で議論する。			
＜履修条件＞ 大住先生の旧約学を学びたい人。			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 第2回 「旧約法研究の展開と諸問題」（『神学』52、1990年） 第3回 「預言者アモスの召命」（『神学』54、1992年） 第4回 「汝の神に向かって備えをせよ、イスラエルよ」（『神学』55、1993年） 第5回 「申命記の重心」（『聖書学論集』28、1995年） 第6回 「神の臨在の保証」（『神学』63、2001年） 第7回 「『詩篇研究』への補遺—アルファベットうたをめぐる—」（『果てなき探究』、2002年） 第8回 「汝の父と母を敬え」（『テレビンの木陰で』、2002年） 第9回 「モーセ五書批判概観」（『総説 旧約聖書』、2007年） 第10回 「律法からキリストへ」（『神学』70、2008年） 第11回 「135番目の詩編はなぜ出エジプトの賛美か」（『聖書学論集』42、2010年） 第12回 「一つの十戒、複数のテキスト」（『古代世界におけるモーセ五書の伝承』、2011年） 第13回 「救済と創造」（『神学』73、2011年） 第14回 「民の選びの歴史」（『旧約聖書を学ぶ人のために』、2012年） 第15回 「種入れぬパンの祭り—農耕の祭りの歴史化という構想について」（『聖書学論集』46、2014年）			
＜準備学習等の指示＞ あらかじめ大住先生の論文を読む。			
＜テキスト＞ 大住雄一先生が発表された学術的諸論文。			
＜参考書・参考資料等＞ その都度指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業への参加度と学期末のレポート（6000字）で評価する。			

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係			
旧約聖書学特研Ⅱ b		小友 聡	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 死海文書の「感謝の詩編」（ホダヨート）を読む。			
<到達目標> 死海文書の神学と思想を理解する。			
<授業の概要> 死海文書翻訳委員会訳『死海文書Ⅷ』を用いて、「感謝の詩編」を講読する。			
<履修条件> 死海文書に関心があり、旧約聖書との繋がりを知りたい人。			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 死海文書とは 第3回 「感謝の詩編」概説 第4回 I～Ⅳ（テキスト1～9頁） 第5回 V～Ⅵ（テキスト～20頁） 第6回 Ⅶ～Ⅷ（テキスト～30頁） 第7回 Ⅸ～Ⅹ（テキスト～45頁） 第8回 ⅩⅠ～ⅩⅡ（テキスト～60頁） 第9回 ⅩⅢ～ⅩⅣ（テキスト～74頁） 第10回 ⅩⅤ～ⅩⅥ（テキスト～88頁） 第11回 ⅩⅦ～ⅩⅨ（テキスト～100頁） 第12回 ⅩⅩ～ⅩⅩⅠ（テキスト～112頁） 第13回 ⅩⅩⅡ～ⅩⅩⅣ（テキスト～122頁） 第14回 ⅩⅩⅤ～ⅩⅩⅥ（テキスト～130頁） 第15回 まとめ			
<準備学習等の指示> あらかじめテキスト（翻訳）を読み、その思想内容をよく考える。			
<テキスト> 死海文書翻訳委員会訳『死海文書Ⅷ詩編』、ぷねうま舎、3,600円を購入すること。原典はこちらで用意する。			
<参考書・参考資料等> その都度、指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への背極性、学期末に死海文書に関するレポート（6,000字）提出で評価する。			

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係			
旧約聖書学演習Ⅱ a		矢田 洋子	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 旧約聖書学の基本文献をじっくり読み、旧約学の基本知識を身に着ける。			
<到達目標> 旧約聖書神学の基本的用語を理解することにより、旧約学の専門書を読んで理解できるようになる。			
<授業の概要> ブルッグマン『旧約聖書神学用語辞典』のすべての項目を読み、毎回その内容をめぐって議論する。毎回、参加者に内容報告をしていただく。			
<履修条件> ヘブライ語の知識はなくてもよい。旧約専攻以外の方々の履修を期待する。			
<授業計画> 第1回：オリエンテーション 第2回：愛、贖い、アシェラ、アッシリア、荒れ野、安息日、イゼベル、一神教 第3回：祈り、栄光、エジプト、エズラ、選び、エリヤ、エルサレム、王権／王制 第4回：応報、割礼、カナン人、金、神顕現、神の似姿、神の箱、感謝 第5回：義、聞く、犠牲、奇跡、希望、教育、共同体、寄留者 第6回：悔い改め、苦難の僕、苦しみ、契約、契約の書、混沌、祭司 第7回：祭司伝承、サタン、サマリア人、賛美、死、十戒、祝祭、祝福 第8回：出エジプト、主の日、書記、贖罪、神義論、信仰、神殿、申命記神学 第9回：救い、性、聖／聖性、正典、聖なる高台、戦争、創造、族長 第10回：墮罪、ダビデ、地、知恵、罪、天使、伝承、天上の会議 第11回：トーラー、嘆き、残りの者、バアル、バビロン、ハンナ、ヒゼキヤの改革 第12回：復讐、復活、プリム、フルダ、ペルシア、ヘレム、豊穡宗教、暴力 第13回：捕囚、ミリアム、メシア、黙示思想、モーセ、約束、寡婦、赦し 第14回：預言者、ヨシヤの改革、ヨベル、隣人、倫理、霊、礼拝、歴史 第15回：歴代誌史家、災い、主、（全体のまとめ）			
<準備学習等の指示> 毎回、あらかじめ辞典項目を読んでおくこと。			
<テキスト> W.ブルッグマン（小友左近監訳）『旧約聖書神学用語辞典』日本キリスト教団出版局、6820円。			
<参考書・参考資料等> A.ベルレユング／C.フレーフェル（山吉訳）『旧約新約聖書神学事典』教文館、その他は授業で指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 発表の内容、及び、提出していただくレポートによって評価する。			

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係			
旧約聖書学演習Ⅱ b		矢田 洋子	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> ヘブライ語の単語に注目して旧約聖書を読む。コンコーダンスと旧約神学用語辞典の利用。			
<到達目標> ヘブライ語のコンコーダンスを使えるようになる。旧約神学用語辞典を読みこなす。それらを通して、ヘブライ語を履修していない人、聖書神学専攻でない人でも、「ヘブライ語で」旧約聖書が読めるようになる。			
<授業の概要> 時間を表すヘブライ語に注目することによって、旧約聖書の時間概念を究明する。毎回、参加者に発表をしていた だく。			
<履修条件> ヘブライ語の知識があらかじめある必要はないが、コンコーダンスや神学用語辞典を利用できる程度にはヘブライ 語アルファベットの識別などを身に付けていただくことになります。			
<授業計画> 第1回：オリエンテーション 第2回：ヘブライ語の時間概念 Jenni, “Time”, <i>The Interpreter’s Dictionary of the Bible</i> ; ボーマン『ヘブライ人とギリシア人の思惟』 第3回：עת (時)、זמן (時) 第4回：עוֹלָם (定められた時) 第5回：יום (日) 第6回：רגע (瞬間)、קצוֹן (束の間の)、 第7回：קץ (終わり) 第8回：אַחֲרֵית (終わり) 第9回：קֶדֶם (始めに、前に)、 第10回：דוֹר (世代) 第11回：עוֹלָם (永遠)、 第12回：עַד (永遠)、נֶצַח (永遠)、 第13回：שָׁנָה (年)、חֹדֶשׁ (月) 第14回：עַתָּה (今)、תָּמִיד (常に) 第15回：まとめ			
<準備学習等の指示> 発表準備に加えて、毎回、あらかじめ取り上げる単語に注目して聖書を読んでおくこと。			
<テキスト> Biblia Hebraica Stuttgartensia			
<参考書・参考資料等> <i>Theological Dictionary of the Old Testament</i> の各項目 ; G.Lisowsky, <i>Konkordanz zum Hebräischen Alten Testament</i> , その他の参考文献はそのつど指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 発表の内容、及び、提出していただくレポートによって評価する。			

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係			
シリア語 a		佐藤 泉	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞通年で履修するのが望ましい。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞聖書の古代訳の一つにペシッタ（シリア語訳）がある。ペシッタを読むためのシリア語文法の基礎を学ぶ。			
＜到達目標＞①シリア語文法の基礎を身につける。②身につけたシリア語文法の基礎を生かし、辞書も用いながら、ペシッタを読むことができるようになる。			
＜授業の概要＞練習問題に取り組むながら、ペシッタを読むために必要なシリア語文法を学ぶ。			
＜履修条件＞ヒブル語履修済みであることが望ましい。			
＜授業計画＞			
第1回：序 シリア語を学ぶ意義等を話し、子音について （1）ヤコブ派の書体を学ぶ。			
第2回：子音について（2） ネストリウス派とエストラングラの書体を学ぶ。			
第3回：母音について ヤコブ派とネストリウス派の母音記号を学ぶ。			
第4回：代名詞について 人称・指示・疑問・関係代名詞を学ぶ。			
第5回：前置詞について 基本的なものをいくつか学ぶ。			
第6回：名詞について（1） 基本的な名詞について、ヘブライ語との比較をしつつ、その特徴を学ぶ。			
第7回：代名詞語尾について ヘブライ語と同様にシリア語も名詞等に代名詞語尾がつくことを学ぶ。			
第8回：名詞について（2） 母音の移動を伴うものを学ぶ。			
第9回：名詞について（3） 不規則変化するものを学ぶ。			
第10回：規則動詞について（1） Peal 形の変化、特に完了を学ぶ。			
第11回：規則動詞について（2） Peal 形の変化、特に未完了・命令・分詞・不定詞を学ぶ。			
第12回：規則動詞について（3） Ethpeel 形の変化を学ぶ。			
第13回：規則動詞について（4） Pael 形と Ethpael 形の変化を学ぶ。			
第14回：規則動詞について（5） Aphel 形と Ettaphal 形の変化を学ぶ。			
第15回：規則動詞について（6） 代名詞語尾のついた形の変化を学ぶ。			
＜準備学習等の指示＞授業中に指示のあった練習問題等について、できる範囲で準備すること。			
＜テキスト＞Theodore H. Robinson, Paradigms and Exercises in Syriac Grammar,3 rd .ed.,Oxford University Press, London, 1949.			
＜参考書・参考資料等＞ William Jennings, Lexicon to the Syriac New Testament, Oxford at the Clarendon Press, 1926. Takamitsu Muraoka , Classical Syriac for Hebraists, Wiesbaden : O. Harrassowitz , 1987			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞予習・復習、積極的な授業参加の状況によって成績をつける。			

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係			
シリア語 b		佐藤 泉	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞通年で履修するのが望ましい。	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞聖書の古代訳の一つにペシッタ（シリア語訳）がある。ペシッタを読むためのシリア語文法の基礎を学ぶ。			
＜到達目標＞①シリア語文法の基礎を身につける。②身につけたシリア語文法の基礎を生かし、辞書も用いながら、ペシッタを読むことができるようになる。			
＜授業の概要＞シリア語文法の学びを継続する。その後に講読に入るが、まず新約からマタイによる福音書の「山上の説教」、さらに旧約からエレミヤ書等をペシッタで読む。（箇所は未定。授業中に指示する。）			
＜履修条件＞シリア語 a 履修済みであること。また、ヒブル語履修済みであることが望ましい。			
＜授業計画＞			
第1回：不規則動詞について（1） Pê Nûn 動詞の変化を学ぶ。			
第2回：不規則動詞について（2） Lâmed 喉音動詞の変化を学ぶ。			
第3回：不規則動詞について（3） Pê 'alep 動詞の変化を学ぶ。			
第4回：不規則動詞について（4） Pê Yôd 動詞の変化を学ぶ。			
第5回：不規則動詞について（5） 二根字動詞の変化を学ぶ。			
第6回：不規則動詞について（6） 二重'ayin 動詞の変化を学ぶ。			
第7回：不規則動詞について（7） Lâmed 'alep・Lâmed Yôd 動詞の変化を学ぶ。			
第8回：「山上の説教」の講読（1） Jennings の辞書を引きながら、ペシッタを読むことに慣れる。			
第9回：「山上の説教」の講読（2） 原典との比較をしつつ読むことを味わう。			
第10回：「山上の説教」の講読（3） シリア語文法、特に不規則変化する名詞を確認しつつ読む。			
第11回：「山上の説教」の講読（4） シリア語文法、特に動詞の変化を確認しつつ読む。			
第12回：「山上の説教」の講読（5） シリア語が解釈に影響を与えている一例について話す。			
第13回：エレミヤ書等の講読（1） ネストリウス派の書体・母音記号で読むことに慣れる。			
第14回：エレミヤ書等の講読（2） シリア語文法を全体的に思い出しつつ読む。			
第15回：エレミヤ書等の講読（3） 原典や七十人訳と比較しつつ読むことを味わう。			
＜準備学習等の指示＞授業中に指示のあった練習問題等について、できる範囲で準備すること。			
＜テキスト＞Theodore H. Robinson, Paradigms and Exercises in Syriac Grammar,3 rd .ed.,Oxford University Press, London, 1949.			
＜参考書・参考資料等＞ William Jennings, Lexicon to the Syriac New Testament, Oxford at the Clarendon Press, 1926. Takamitsu Muraoka , Classical Syriac for Hebraists, Wiesbaden : O. Harrassowitz , 1987. J. Payne Smith , A compendious Syriac dictionary : founded upon the Thesaurus Syriacus of R. Payne Smith, Winona Lake, Ind. : Eisenbrauns , 1998.			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞予習・復習、積極的な授業参加の状況によって成績をつける。			

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係			
修士論文指導演習 旧約神学Ⅰ		小友 聡	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 翌年度前期末に修士論文を提出しようとする前期課程1年次生の論文執筆の指導と情報交換を行う。			
＜到達目標＞ 修士課程修了にふさわしい論文が書けるようになる。			
＜授業の概要＞ 論文を執筆することの意味とプロセスを解説し、テキスト研究及び二次文献の検索を行う。			
＜履修条件＞ 2021年9月に旧約に関する修士論文を提出する予定である者は、必ず参加すること。			
＜授業計画＞ 第1回 導入。論文執筆の意味 第2回 課題の見いだし方 律法関係 第3回 課題の見いだし方 預言者関係 第4回 課題の見いだし方 文学関係 第5回 テキスト翻訳 律法関係 第6回 テキスト翻訳 預言者関係 第7回 テキスト翻訳 文学関係 第8回 テキストの構造解明 律法関係 第9回 テキストの構造解明 預言者関係 第10回 テキストの構造解明 文学関係 第11回 辞書、コンコルダンスの使い方 第12回 二次文献の検索方法 第13回 暫定的な文献表の作成 第14回 二次文献の使い方 第15回 方法を使いこなす			
＜準備学習等の指示＞ 毎回割り当てられた課題を発表する準備をすること。			
＜テキスト＞ ビブリア・ヘブライカほか、論文執筆者別に指示する。			
＜参考書・参考資料等＞ 毎回必要な文献を指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 割り当てられた課題の発表（50％）、討論への貢献（50％）を総合して評価する。			

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係			
修士論文指導演習 旧約神学Ⅱ		小友 聡	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 今年度前期末に修士論文を提出しようとする前期課程2年次生の論文執筆の指導と情報交換を行う。			
＜到達目標＞ 修士課程修了にふさわしい論文を執筆、完成させる。			
＜授業の概要＞ 論文の準備研究を各自が発表し、参加者がこれについて質問し、意見を述べる。			
＜履修条件＞ 本年9月に旧約に関する修士論文提出予定者は必ず参加すること。			
＜授業計画＞ 第1回 導入。論文執筆の手順 第2回 問題設定 律法関係 第3回 問題設定 預言者関係 第4回 問題設定 文学関係 第5回 研究史 律法関係 第6回 研究史 預言者関係 第7回 研究史 文学関係 第8回 主要テーマ 律法関係 第9回 主要テーマ 預言者関係 第10回 主要テーマ 文学関係 第11回 論証過程 律法関係 第12回 論証過程 預言者関係 第13回 論証過程 文学関係 第14回 結論 第15回 最終的な質疑応答			
＜準備学習等の指示＞ 割り当てられた課題を発表できるようにしておくこと。			
＜テキスト＞ 論文執筆者別に指示する。			
＜参考書・参考資料等＞ 毎回必要な文献を指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 学期末には暫定的に可否のみ通知するが、最終的に提出論文の成績が本演習の成績となる。			

聖書神学専攻・新約聖書神学関係			
新約聖書学特講Ⅱ a		中野 実	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞ 特になし	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ ヘブライ書の原典講読を通して、釈義する力を養う。			
＜到達目標＞ 新約聖書テキストを原典から読み、釈義する方法を学びながら、聖書を学問的および主体的に解釈する力を身につけることができる。			
＜授業の概要＞ 今年度は、ヘブライ書の原典講読および釈義に取り組む。序論的な事柄を学んだ後、各単元を分担しながら読み、釈義していく。			
＜履修条件＞ 通年で履修することが好ましい。そうでない場合は、事前に担当者に相談すること。			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 第2回 緒論① いつ、どこで、誰によって執筆されたのか？ 第3回 緒論② 誰に対して何のために書かれたのか？ 第4回 緒論③ ヘブライ書の文学的構成および修辞的構造について 第5回 1章 1-4 節 原典講読 本文批評、試訳、文法的分析、キーワード分析 第6回 1章 1-4 節 原典講読 文脈、構成、背景 第7回 1章 1-4 節 節ごとの注解および解説 第8回 1章 5-14 節 原典講読 本文批評、試訳、文法的分析、キーワード分析 第9回 1章 5-14 節 原典講読 文脈、構成、背景 第10回 1章 5-14 節 節ごとの注解および解説 第11回 2章 1-4 節 原典講読 本文批評、文法的分析、キーワード分析、文脈、構成、背景 第12回 2章 1-4 節 節ごとの注解および解説 第13回 2章 5-18 節 原典講読 本文批評、試訳、文法的分析、キーワード分析 第14回 2章 5-18 節 原典講読 文脈、構成、背景 第15回 2章 5-18 節 節ごとの注解および解説			
＜準備学習等の指示＞ こつこつギリシャ語原典を読み、必要な参考書などに取り組む努力をする。			
＜テキスト＞ ギリシャ語新約聖書（ネストレ・アーラントあるいは UBS）			
＜参考書・参考資料等＞ 必要に応じてクラスで指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ クラスへの積極的参加（出席、分担発表、質問、コメントなど）を求める。参加、分担参加（40%）、および（4,000 - 5,000 字の）期末レポート（60%）によって総合的に評価する。出席が三分の二に達しない場合は、原則として評価の対象にしない。			

聖書神学専攻・新約聖書神学関係			
新約聖書学特講Ⅱ b		中野 実	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞ 特になし	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ ヘブライ書の原典の講読を通して、釈義する力を養う。			
＜到達目標＞ 新約聖書テキストを原典から読み、釈義する方法を学びながら、聖書を学問的および主体的に解釈する力を身につけることができる。			
＜授業の概要＞ 今年度は、ヘブライ書の原典講読および釈義に取り組む。序論的な事柄を学んだ後、各単元を分担しながら読み、釈義していく。			
＜履修条件＞ 通年で履修することが好ましい。そうでない場合は、事前に担当者に相談すること。			
＜授業計画＞ 第1回 3章1-6節 原典講読 本文批評、試訳、文法的分析、キーワード分析 第2回 3章1-6節 原典講読 文脈、構成、背景 第3回 3章1-6節 節ごとの注解および解説 第4回 3章7-19節 原典講読 本文批評、試訳、文法的分析、キーワード分析 第5回 3章7-19節 原典講読 文脈、構成、背景 第6回 3章7-19節 節ごとの注解および解説 第7回 4章1-11節 原典講読 本文批評、試訳、文法的分析、キーワード分析 第8回 4章1-11節 原典講読 文脈、構成、背景 第9回 4章1-11節 節ごとの注解および解説 第10回 4章12-13節 原典講読 本文批評、試訳、文法分析、キーワード分析、文脈、構成、背景 第11回 4章12-13節 節ごとの注解および解説 第12回 4章14-16節 原典講読 本文批評、試訳、文法的分析、キーワード分析 第13回 4章14-16節 原典講読 文脈、構成、背景 第14回 4章14-16節 節ごとの注解および解説 第15回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞ こつこつギリシャ語原典を読み、必要な参考書などに取り組む努力をする。			
＜テキスト＞ ギリシャ語新約聖書（ネストレ・アーラントあるいはUBS）			
＜参考書・参考資料等＞ 必要に応じてクラスで指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ クラスへの積極的参加（出席、分担発表、質問、コメントなど）を求める。参加、分担参加（40%）、および（4,000 - 5,000 字の）期末レポート（60%）によって総合的に評価する。出席が三分の二に達しない場合は、原則として評価の対象にしない。			

聖書神学専攻・新約聖書神学関係			
新約聖書学特研Ⅱ a		焼山 満里子	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 新約聖書の黙示思想研究。			
<到達目標> イエスまでの終末論の系譜をたどる。			
<授業の概要> 新約聖書釈義、研究書講読を通してパウロ神学を学ぶ。			
<履修条件> なし			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 門脇佳吉『パウロの中心思想』 第3回 『終末論の系譜』第一部 1章 預言者の終末論 第4回 『終末論の系譜』第一部 2章 バビロン捕囚以後の地上的・政治的終末待望 第5回 『終末論の系譜』第一部 3章 「天上の神殿」の表象と神秘主義 第6回 『終末論の系譜』第一部 4章 宇宙史の終末論 第7回 『終末論の系譜』第一部 5章 イエス時代の政治主義的メシア運動 第8回 『終末論の系譜』第二部 6章 「神の国は近づいた」 第9回 『終末論の系譜』第二部 7章 「人の子」イエスの再臨 第10回 『終末論の系譜』第二部 8章 過去の中に到来している未来 第11回 テサロニケー1章釈義 第12回 テサロニケー2章釈義 第13回 テサロニケー3章釈義 第14回 テサロニケー4章釈義 第15回 テサロニケー5章釈義			
<準備学習等の指示> 各回の課題著書、釈義を予めすませて出席すること。			
<テキスト> 大貫隆『終末論の系譜』筑摩書房、2019年			
<参考書・参考資料等> 適宜案内する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 毎回の授業参加、発表、期末レポート。			

聖書神学専攻・新約聖書神学関係		
新約聖書学特研Ⅱ b	焼山 満里子	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<授業のテーマ> パウロ神学、黙示思想研究。		
<到達目標> パウロ神学を理解する。		
<授業の概要> パウロ書簡の釈義、研究書講読を通してパウロ神学を学ぶ。		
<履修条件> なし		
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 テサロニケの信徒への手紙Ⅱ 1章釈義 第3回 テサロニケの信徒への手紙Ⅱ 2章釈義 第4回 テサロニケの信徒への手紙Ⅱ 3章釈義 第5回 『古代都市のキリスト教』1章 第6回 『古代都市のキリスト教』2章 第7回 『古代都市のキリスト教』3章 第8回 『古代都市のキリスト教』4章 第9回 『古代都市のキリスト教』5章 第10回 『キリスト教とローマ帝国』1章 第11回 『キリスト教とローマ帝国』2章 第12回 『キリスト教とローマ帝国』3章 第13回 『キリスト教とローマ帝国』4章 第14回 『キリスト教とローマ帝国』5章 第15回 まとめ レポート		
<準備学習等の指示> 各回の課題著書、釈義を予めすませて出席すること。		
<テキスト>ミークス『古代都市のキリスト教』ヨルダン社、1989年 スターク『キリスト教とローマ帝国』新教出版社、2014年		
<参考書・参考資料等> 適宜案内する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 毎回の授業参加、発表、期末レポート。		

聖書神学専攻・新約聖書神学関係			
新約聖書原典釈義Ⅰ a		遠藤 勝信	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>原則として通年（a, b）で登録すること。但し、学期毎履修学生にも対応する。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> ヨハネによる福音書 16：07～17:23 までの原典釈義。ギリシア語新約聖書のテキストを歴史的、文学的、神学的文脈に基づいて解釈する方法を学ぶ。			
<到達目標> 学生が、新約聖書学の基礎（研究史、釈義の方法論）を修得し、テキストと真摯に向き合う姿勢を学ぶ。			
<授業の概要> はじめに近年のヨハネ福音書研究の動向（研究史、方法論）を概観し、釈義上の問題及び観点を確認する。その後、参加者による発表とディスカッション。			
<履修条件> 新約ギリシャ語原典テキスト読解力を有すること。ギリシャ語中級文法の知識があることが望ましい。			
<授業計画> Ⅰ. 講義を中心に 第01回 研究史を概観し、近年の研究状況と釈義の諸問題を学ぶ。 第02回 ギリシャ語新約聖書本文批評の実際。 第03回 テキストの文学批評の実際。 第04回 テキストと歴史批評の実際。 Ⅱ. 演習（参加者による釈義の発表とディスカッション）を中心に 第05回 ヨハネ16：07～11の原典釈義 第06回 ヨハネ16：12～18の原典釈義 第07回 ヨハネ16：19～22の原典釈義 第08回 ヨハネ16：23～28の原典釈義 第09回 ヨハネ16：29～33の原典釈義 第10回 ヨハネ17：01～05の原典釈義 第11回 ヨハネ17：06～08の原典釈義 第12回 ヨハネ17：09～12の原典釈義 第13回 ヨハネ17：13～19の原典釈義 第14回 ヨハネ17：20～23の原典釈義 Ⅲ. 総括 第15回 釈義演習の総括的な反省と展望。			
<準備学習等の指示> クラスで取り上げる新約聖書テキストをギリシア語文法に則して読み、準備してクラスに出席すること。			
<テキスト> Nestle-Aland (28 th ed., 2012), <i>Novum Testamentum Graece</i>			
<参考書・参考資料等> R・ブルトマン著、杉原助訳『ヨハネの福音書』、2005年 R・A・カルベツパー著、伊東寿泰訳『ヨハネ福音書文学的解剖』2005年 R・ボウカム、浅野淳博訳『イエスとその目撃者たち』2011年 C.S. Keener, <i>The Gospel of John- A Commentary vol.1</i> , 2003.			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業における発表と期末試験（指定されたテキストについての釈義ペーパー [6,000～8,000文字]）。釈義ペーパーに、新約聖書学の基礎的理解及びテキストへの真摯な取り組みが反映されているかを評価。尚、出席が三分の二を満たさない場合、期末試験の受験を許可しない。			

聖書神学専攻・新約聖書神学関係			
新約聖書原典釈義 I b		遠藤 勝信	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>原則として通年（a, b）で登録すること。但し、学期毎履修学生にも対応する。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> ヨハネの黙示録 02：08～05:10 までの原典釈義。ギリシア語新約聖書のテキストを歴史的、文学的、神学的文脈に基づいて解釈する方法を学ぶ。			
<到達目標> 学生が、新約聖書学の基礎（研究史、釈義の方法論）を修得し、テキストと真摯に向き合う姿勢を学ぶ。			
<授業の概要> はじめに近年のヨハネ黙示録研究の動向（研究史、方法論）を概観し、釈義上の問題及び観点を確認する。その後、参加者による発表とディスカッション。			
<履修条件> 新約ギリシヤ語原典テキスト読解力を有すること。ギリシヤ語中級文法の知識があることが望ましい。			
<授業計画> I. 講義を中心に 第01回 イントロダクション。黙示録の文学ジャンル。 第02回 黙示録を読む前に（その1）：黙示録の周辺、背景理解。 第03回 黙示録を読む前に（その2）：構造と構成、神学、他。 第04回 黙示録1章～2章7節までを概観し、釈義の営みにおける課題と観点を確認する。 II. 演習（参加者による発表とディスカッション）を中心に 第05回 黙示録02：08 ～11 の原典釈義 第06回 黙示録02：12 ～17 の原典釈義 第07回 黙示録02：18 ～29 の原典釈義 第08回 黙示録03：01 ～06 の原典釈義 第09回 黙示録03：07 ～13 の原典釈義 第10回 黙示録03：14 ～22 の原典釈義 第11回 黙示録04：01 ～06a の原典釈義 第12回 黙示録04：06b～11 の原典釈義 第13回 黙示録05：01 ～05 の原典釈義 第14回 黙示録05：06 ～10 の原典釈義 III. 総括 第15回 釈義演習の総括的な反省と展望。			
<準備学習等の指示> クラスで取り上げる箇所のギリシア語テキストを十分読み、準備してクラスに出席すること。			
<テキスト> Nestle-Aland (28 th ed., 2012), <i>Novum Testamentum Graece</i>			
<参考書・参考資料等> 佐竹明著『ヨハネの黙示録』（上・下巻）2009 年 R・ボウカム著、飯郷友康・小河陽訳『ヨハネ黙示録の神学』2001 年 R. Bauckham, <i>The Climax of Prophecy</i> , 1993. G. Beale, <i>The Book of Revelation</i> (NIGTC), 1999. D. Aune, <i>Revelation 6-16</i> (WBC), 1997. S. Smalley, <i>The Revelation of John</i> (IVP), 2005. 他、クラスで随時紹介。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業における発表と期末試験（指定されたテキストについての釈義ペーパー [6,000～8,000 文字]）。釈義ペーパーに、新約聖書学の基礎的理解及びテキストへの真摯な取り組みが反映されているかを評価。尚、出席が三分の二を満たさない場合、期末試験の受験を許可しない。			

聖書神学専攻・新約聖書神学関係			
修士論文指導演習 新約神学Ⅰ		中野 実 焼山 満里子	＜担当形態＞ 複数
後期・2単位		＜登録条件＞ 新約神学で修論を書く予定の学生	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 来年度に修士論文を提出予定の、新約聖書神学専攻の大学院一年生のための演習。			
＜到達目標＞ 適切なテーマを選定することができ、論文を書くための技術を身につけることができる。			
＜授業の概要＞ 論文を書くとはどういうことかを学びつつ、各自その課題を進めていく。毎回、学生の発表を中心に進められていく。全体としては二人の教員が共に責任を負うが、それぞれの指導担当学生との個別指導も織り交ぜながら行なわれる。			
＜履修条件＞ 2021年9月に修論を提出予定の学生			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 第2回 論文を書くとは？ 第3回 各自の課題、問題探し 第4回 その課題、問題に関連するテキスト探し 第5回 課題テキストについて深く学ぶ 第6回 テーマの選定、見直し、決定 第7回 研究のための方法およびツールについて 第8回 資料、先行研究探し 第9回 先行研究の学び 第10回 先行研究の学びとそこからの展開 第11回 問題設定、テーゼへ向かって 第12回 問題設定、テーゼの吟味 第13回 題名、目次作成へ向かって 第14回 議論の組み立てへ向かって 第15回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞ 論文はモノログではないので、教師、学生との対話を大事にすること。			
＜テキスト＞ 必要に応じて、指示する。			
＜参考書・参考資料等＞ 担当者は必要に応じて、指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ クラスへの出席、課題への積極的参加度などによって総合的に評価する。テーマの選定、課題テキストの学び、先行研究の学び、論文を書く技術をみがくことなどに関して十分な努力をしているかどうかの評価の指標となる。			

聖書神学専攻・新約聖書神学関係			
修士論文指導演習　新約神学Ⅱ		中野　実 焼山　満里子	<担当形態> 複数
前期・2単位		<登録条件>　新約専攻の大学院2年生	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）		
<授業のテーマ>　今年度前期末に修論を提出予定の学生のための演習。			
<到達目標>　各自が修士論文を進めていくために必要な手助けが与えられ、論文を仕上げるができる。			
<授業の概要>　論文の執筆段階における、各自の研究発表が中心となる。指導教授および参加学生の質問や意見をききつつ、論文を仕上げていく。			
<履修条件>　2020年9月に新約聖書神学専攻で修士論文を提出予定の学生			
<授業計画> 第1回　オリエンテーション 第2回　問題設定の点検 第3回　資料の点検 第4回　題名、目次、議論の枠組みを整える。 第5回　より明確な問題設定の獲得 第6回　（仮）序論の執筆 第7回　研究史に関する発表 第8回　研究史に基づく展開 第9回　論文のテーゼ、発表 第10回　論文のテーゼの点検 第11回　議論の組み立て　発表 第12回　議論の組み立て　点検 第13回　結論を書く 第14回　論文のフォーマットの整理、注、文献表など。 第15回　まとめ			
<準備学習等の指示>　クラスで指示する。			
<テキスト>　必要に応じて、指示する。			
<参考書・参考資料等>　必要に応じて、指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）>　クラスへの出席、課題への参加度などによって、総合的に評価する。修士論文を仕上げていく課題にどれほど積極的に取り組んでいるかが評価の指標となる。			

組織神学専攻・組織神学関係			
組織神学特講Ⅰa		須田 拓	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件> 学期毎の登録可	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 17世紀イングランドのピューリタン神学について、その論点と教義学的特徴とを概説する。			
<到達目標> 自由教会の起源と言ってもよいイングランド・ピューリタンの神学の概略を知り、日本の教会の伝統について考えることができる。			
<授業の概要> 17世紀イングランドのピューリタン神学について、組織神学の観点から講義する。いくつかのトピックを取り上げた上で、現代神学と比較し、現代神学に対する意義について考える。			
<履修条件> 特になし			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 17世紀イングランドの教会と神学 第3回 救済論(1) アルミニウス主義と無律法主義 第4回 救済論(2) リチャード・バクスター（長老派）の場合 第5回 救済論(3) ジョン・オーウェン（会衆派）の場合 第6回 救済論(4) その他の神学者の場合 第7回 中間総括 第8回 三位一体論と聖霊論(1) ソツツィーニ主義の主張 第9回 三位一体論と聖霊論(2) ジョン・オーウェンの場合 第10回 三位一体論と聖霊論(3) トマス・グッドウィン（会衆派）の場合 第11回 三位一体論と聖霊論(4) 急進的諸派の場合 第12回 教会論(1) 国教会体制の神学 第13回 教会論(2) ウェストミンスター会議の神学 第14回 教会論(3) 自由教会の神学 第15回 まとめ			
<準備学習等の指示> それぞれの項目について、宗教改革者や現代の神学者の基本的理解を確認しておく			
<テキスト> 特になし			
<参考書・参考資料等> 授業において、必要に応じて指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> レポート（4,000字程度）によって評価する。			

組織神学専攻・組織神学関係			
組織神学特講 I b		須田 拓	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件> 学期毎の登録可	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 救済論の諸相を学ぶことを通して、現代神学の議論に触れ、深い教義学の理解を持つことを目指す。			
<到達目標> 救済という信仰の重要なテーマについて、現代神学にどのような議論があるのかを知り、自らこの問題について考えることができるようになる。			
<授業の概要> 救済論、特に再生・聖化論について講義する。論点を整理した上で、現代の様々な神学者の議論を概観し、あるべき救済論の姿を模索する。			
<履修条件> 特になし			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 救済論の論点(1) 救済の根拠と内容 第3回 救済論の論点(2) 救済の秩序と現実性 第4回 救済の根拠と内容(1) カール・バルトの場合 第5回 救済の根拠と内容(2) ヴォルフハルト・パネンベルクの場合 第6回 救済の根拠と内容(3) ユルゲン・モルトマン、ミヒャエル・ヴェルカーの場合 第7回 救済の根拠と内容(4) ロバート・ジェンソンらの場合 第8回 中間総括 第9回 義認と再生・聖化(1) カール・バルトの場合 第10回 義認と再生・聖化(2) ヴォルフハルト・パネンベルク、ユルゲン・モルトマンの場合 第11回 救済の現実性(1) カール・バルトの場合 第12回 救済の現実性(2) ヴォルフハルト・パネンベルク、ユルゲン・モルトマンの場合 第13回 救済の現実性(3) ミヒャエル・ヴェルカー、ロバート・ジェンソンの場合 第14回 救済の現実性(4) 近年の議論 第15回 まとめ			
<準備学習等の指示> 前回までの復習をした上で、授業で扱われるテーマについて、自分なりの考えをまとめてみる			
<テキスト> 特になし			
<参考書・参考資料等> 授業において、必要に応じて指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> レポート（4,000字程度）によって評価する。			

組織神学専攻・組織神学関係			
組織神学特研Ⅰ		神代 真砂実	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞ 特になし	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 2001 年以降、つまり、今世紀に入ってから現れた組織神学関係の書物、あるいは哲学書を精読し、内容を批判的に吟味しながら、組織神学的思考力を鍛える。			
＜到達目標＞ ①文献の内容について深い理解を得る。②その内容を思想史的文脈や現代の課題との関連の中で考えられるようになる。③文献を批判的に読むことで、神学的な主体性を獲得する。			
＜授業の概要＞ 今世紀に入ってから現れた新しい哲学の潮流である「思弁的實在論」を代表する Q・メイヤースーの『有限性の後で』を精読する。議論を重ねながら、無神論に立つメイヤースーの主張の神学的意義を批判的に考察していく。			
＜履修条件＞ 一回の発表に 3,000 字程度のレジュメを用意して貰うが、内容的にも高度なものを求めるので、最低 5 名の履修者が得られない場合には開講しない。また、履修する場合には、最後まで投げ出さないこと。			
＜授業計画＞ 第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 テキスト、9～22 頁。 第 3 回 同、22～36 頁。 第 4 回 同、37～51 頁。 第 5 回 同、53～69 頁。 第 6 回 同、69～88 頁。 第 7 回 同、89～104 頁。 第 8 回 同、104～118 頁。 第 9 回 同、118～136 頁。 第 10 回 同、137～151 頁。 第 11 回 同、151～168 頁。 第 12 回 同、169～186 頁。 第 13 回 同、187～201 頁。 第 14 回 同、201～214 頁。 第 15 回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞ テキストに事前に目を通すことは大前提であるが、さらに内容や関連事項についても自分で調べ、考えてくることが重要である。			
＜テキスト＞ カンタン・メイヤースー、『有限性の後で——偶然性の必然性についての試論』、千葉雅也他訳、人文書院、2016 年。			
＜参考書・参考資料等＞ 授業の中で適宜、指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 発表・授業への参加度・期末レポート（本文 8,000 字以上）の総合による。			

組織神学専攻・組織神学関係			
組織神学演習Ⅰa		芳賀 力	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞ 通年（a, b）の履修が望ましい。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 終末論的希望について研究する。			
＜到達目標＞ キリスト教信仰にとって、神の国、永遠の命、死後の生、復活について正しく理解する。			
＜授業の概要＞ N.T.ライト『驚くべき希望』を共に読みながら、現代人にとっての希望の可能性を熟考する。			
＜履修条件＞ 特に専攻にはこだわらない。			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 第2回 N.T.ライト『驚くべき希望』を読む。希望についての混乱(第1章) 第3回 鍵となる問い(第2章) 第4回 初期キリスト者の希望(第3章) 第5回 イースターのストーリー(第4章) 第6回 宇宙の将来(第5章) 第7回 新しい天と地(第6章) 第8回 イエスの昇天と再臨(第7章) 第9回 イエスの現臨(第8章) 第10回 再臨と裁き(第9章) 第11回 体の贖い(第10章) 第12回 天国、煉獄、地獄 第13回 神の王国 第14回 正義、美、伝道 第15回 総括			
＜準備学習等の指示＞ 担当箇所の要約を順番に発表し、問題点を共に討論して、理解を深める。			
＜テキスト＞ N.T.ライト『驚くべき希望』中村佐知訳、あめんどう、2018年			
＜参考書・参考資料等＞ 特になし			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席を重視する。総括としてレポートを提出する。			

組織神学専攻・組織神学関係		
組織神学演習 I b	芳賀 力	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件> 通年（a, b）の履修が望ましい。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<授業のテーマ> 終末論的希望について研究する。		
<到達目標> 悪の存在にもかかわらず、希望するキリスト教信仰の根拠について理解する。永遠の命について正しく理解する。		
<授業の概要> N.T.ライト『悪と神の正義』を読み、悪と希望の関係について考える。その後、A.E.マクグラス『キリスト教の天国』を取り上げて、前期以来のテーマである終末論的希望の研究を総括する。		
<履修条件> 特に専攻にはこだわらない。		
<授業計画> 第1回 前期に続き N.T.ライト『驚くべき希望』の最後を読む。教会と宣教(第14章) 第2回 復活と宣教(第15章a) 第3回 復活と宣教(第15章b) 第4回 N.T.ライト『悪と神の正義』を読む。悪の新しい問題(第1章) 第5回 正義の神(第2章) 第6回 十字架につけられた神(第3章) 第7回 約束する神(第4章) 第8回 悪より救い出したまえ(第5章) 第9回 A.E.マクグラス『キリスト教の天国』を読む。新しいエルサレム(第1章) 第10回 楽園(第2章) 第11回 贖罪(第3章) 第12回 超越のしるし(第4章) 第13回 天国の慰め(第5章) 第14回 旅路の終わり(第6章) 第15回 総括		
<準備学習等の指示> 出席を重視する。総括としてレポートを提出する。		
<テキスト> N.T.ライト『悪と神の正義』 本多峰子訳、教文館、2018年 ならびに A.E.マクグラス『キリスト教の天国』 本多峰子訳、キリスト新聞社、2006年		
<参考書・参考資料等> 特になし		
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席を重視する。総括としてレポートを提出する。		

組織神学専攻・組織神学関係			
組織神学演習Ⅱ a		神代 真砂実	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件> 組織神学演習Ⅱ b との通年履修が望ましい。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校・高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 組織神学の代表的文献であるカール・バルトの『教会教義学』の精読を通して、組織神学的思考を養う。また、20 世紀の代表的神学者であるバルトの神学思想の特色について基本的な事柄を理解する。			
<到達目標> ①高度な神学書の読解力を身に着ける。②バルトの神学的思惟の特徴を理解する。③バルトを通して教義学の特定の課題についての総合的な理解を身に着ける。			
<授業の概要> バルトの『教会教義学』から創造論中の倫理学、特に 56 節（「限界の中での自由」）に展開される議論を学ぶ。テキストを精読し、その内容についての議論を重ね、また、適宜、解説を加えることで理解を深める。			
<履修条件> 難しい学びに挑戦し、自分の可能性を広げようとする意欲を持っていること。			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 テキスト、3～18 頁（56 節 1. 一度だけの機会①） 第3回 同、18～41 頁（同②） 第4回 同、41～64 頁（同③） 第5回 同、65～89 頁（2. 召命①） 第6回 同、89～112 頁（同②） 第7回 同、112～123 頁（同③） 第8回 同、123～137 頁（同④） 第9回 同、137～156 頁（同⑤） 第10回 同、157～172 頁（同⑥） 第11回 同、173～187 頁（3. 栄誉①） 第12回 同、187～204 頁（同②） 第13回 同、204～217 頁（同③） 第14回 同、217～236 頁（同④） 第15回 同、236～252 頁（同⑤）			
<準備学習等の指示> 演習なので、必ずテキストをよく読んでから出席すること。			
<テキスト> カール・バルト、『教会教義学・創造論Ⅳ／4 創造者なる神の戒め〈iv〉』、吉永正義訳（新教出版社、オンデマンド）。			
<参考書・参考資料等> 授業の中で適宜、紹介する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加度（30％）および小課題（70％）による。			

組織神学専攻・組織神学関係			
組織神学演習Ⅱ b		神代 真砂実	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞ 組織神学演習Ⅱ a との通年履修が望ましい。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校・高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 前期と同じ。			
＜到達目標＞ 前期と同じ。			
＜授業の概要＞ バルトの『教会教義学』から和解論の冒頭の総説部分（57 節と 58 節）を学ぶ。テキストを精読し、その内容についての議論を重ね、また、適宜、解説を加えることで理解を深める。			
＜履修条件＞ 前期と同じ。			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション、およびテキスト、3～19 頁（57 節 1. 神われらと共に①） 第2回 テキスト、19～37 頁（同②） 第3回 同、38～59 頁（2. 和解の前提としての契約①） 第4回 同、59～78 頁（同②） 第5回 同、78～95 頁（同③） 第6回 同、95～112 頁（同④） 第7回 同、113～132 頁（3. 破られた契約の成就） 第8回 同、133～157 頁（58 節 1. イエス・キリストにおける神の恵み） 第9回 同、157～170 頁（2. イエス・キリストにおける人間の存在①） 第10回 同、170～188 頁（同②） 第11回 同、189～210 頁（同③） 第12回 同、211～222 頁（3. 仲保者イエス・キリスト） 第13回 同、223～241 頁（4. 和解論の三形態①） 第14回 同、241～251 頁（同②） 第15回 同、251～267 頁（同③）			
＜準備学習等の指示＞ 前期と同じ。			
＜テキスト＞ カール・バルト、『教会教義学・和解論Ⅰ／1 和解論の対象と問題』、井上良雄訳（新教出版社、オンデマンド）。			
＜参考書・参考資料等＞ 前期と同じ。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 前期と同じ。			

組織神学専攻・組織神学関係			
信条学		芳賀 力	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位		＜登録条件＞ 専攻に関係なく登録可。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 歴史的教会の生み出した諸信条の特色を学ぶ。また教義学の項目に沿って、直接信条の神学を学ぶ。			
＜到達目標＞ 授業の前半で、まず古代教会の基本信条、次いで宗教改革期以後の代表的な信条の特色を把握する。授業の後半でロールスのテキストの各項目を一つずつ読み、実際に信条本文に触れながら、その神学的意味を理解する。			
＜授業の概要＞ 前半は資料を配付し、講義を行う。後半は担当を決め、教義学の主題ごとに発題し、コメントしてもらう。			
＜履修条件＞ 大学院博士課程前期・後期に在籍している者は誰でも履修できる。			
＜授業計画＞ 第１回：信条・信仰告白とは何かを押さえた上で、使徒信条を学ぶ。 第２回：ニケア・コンスタンティノポリス信条を学ぶ。またロールスのテキスト「啓示、神の言葉、伝統」の項目を読む。 第３回：アタナシオス信条を学ぶ。またロールスのテキスト「神の本性と三位一体論」の項目を読む。 第４回：カルケドン信条を学ぶ。またロールスのテキスト「創造と摂理」の項目を読む。 第５回：ルター大・小教理問答を学ぶ。またロールスのテキスト「人間と罪」の項目を読む。 第６回：アウグスブルク信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「恵みの契約と和解」の項目を読む。 第７回：ジュネーヴ教会信仰問答を学ぶ。またロールスのテキスト「キリスト論とカルヴァン主義的な外部」の項目を読む。 第８回：フランス信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「義認と信仰」の項目を読む。 第９回：第一・第二スイス信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「聖化と悔改め」の項目を読む。 第１０回：スコットランド信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「選びと棄却」の項目を読む。 第１１回：ハイデルベルク信仰問答を学ぶ。またロールスのテキスト「教会とそのしるし」の項目を読む。 第１２回：ドルト信仰規準を学ぶ。またロールスのテキスト「御言葉と聖礼典」の項目を読む。 第１３回：ウェストミンスター信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「神の言葉の二様態」の項目を読む。 第１４回：バルメン宣言を学ぶ。またロールスのテキスト「洗礼」の項目を読む。 第１５回：日本基督教団信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「聖餐」の項目を読む。			
＜準備学習等の指示＞ 教室で渡す資料をよく整理し、保存しておくこと。担当者は分担してテキストをよく読むこと。			
＜テキスト＞ 『信条集 前後篇』新教出版社、１９９４年。各自購入すること。またＪ・ロールス『改革教会信仰告白の神学』一麦出版社、２００９年。研究室にて割引価格で頒布する。			
＜参考書・参考資料等＞ 信条に関する研究書を授業で指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席と授業での発表、期末レポートを総合的に評価する。			

組織神学専攻・組織神学関係			
修士論文指導演習 組織神学Ⅰ		神代 真砂実	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞ 狭義の組織神学および実践神学の分野で修士論文を執筆する予定の者。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 修士論文執筆のために必要な技能を学ぶこと、および、修士論文の準備をすること。			
＜到達目標＞ ①組織神学の論文を書くとはどういうことか、そのために必要な技能や作業は何か、を身に着けること。②修士論文執筆に備えての基礎的準備作業（主要文献の読解等）を終えること。			
＜授業の概要＞ 前半では主に論文執筆の過程を学ぶ。後半では各自の修士論文の準備を進めて貰い、順番に報告・発表して貰う。			
＜履修条件＞ 2021 年度に修士論文提出予定の者は必修。			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション——論文の基本的要件 第2回 発表①：各自の論文の主題について 第3回 論文作成の技法①：テキストの分析——全体的な内容の把握 第4回 論文作成の技法②：テキストの分析——構成を把握する 第5回 論文作成の技法③：テキストの分析——書き方を考える 第6回 論文作成の技法④：主題の決定・文献探しについて 第7回 論文作成の技法⑤：リサーチ・主張（テーゼ）の発見・目次の検討 第8回 論文作成の技法⑥：パラグラフ 第9回 発表②：修士論文の主題と文献について（1） 第10回 発表③：同（2） 第11回 発表④：内容の構想について（1） 第12回 発表⑤：内容の構想について（2） 第13回 発表⑥：内容の構想について（3） 第14回 発表⑦：修士論文の主題と文献表と基本構想（1） 第15回 発表⑧：同（2）			
＜準備学習等の指示＞ 授業をきちんと受けること・自分の研究を着実に進めること。			
＜テキスト＞ 担当者が用意するプリント。			
＜参考書・参考資料等＞ 泉忠司、『90分でコツがわかる！論文&レポートの書き方』（青春出版社）。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業への参加度および発表による。			

組織神学専攻・組織神学関係			
修士論文指導演習 組織神学Ⅱ		神代 真砂実	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞ 狭義の組織神学および実践神学の分野で学期末に修士論文を提出予定の者。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 修士論文の作成にあたり、適切な内容と形式について学ぶ。			
＜到達目標＞ 修士論文を完成・提出すること。			
＜授業の概要＞ 各自の学びの成果を順に報告して貰うことで内容を検討すると共に、論文の体裁を持つ短い文章を書いて貰いながら、形式面での基本的技法を学ぶ。			
＜履修条件＞ 2020 年 9 月に狭義の組織神学および実践神学の分野で修士論文を提出予定の者は必修。			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション——修士論文の基本的要件の確認 第2回 各自の論文の主題と文献について① 第3回 各自の論文の主題と文献について② 第4回 各自の論文の主題と文献について③ 第5回 主要文献の読書報告① 第6回 主要文献の読書報告② 第7回 主要文献の読書報告③ 第8回 二次文献から学んだことについての報告① 第9回 二次文献から学んだことについての報告② 第10回 二次文献から学んだことについての報告③ 第11回 主張（テーゼ）と目次と内容の構想について① 第12回 主張（テーゼ）と目次と内容の構想について② 第13回 主張（テーゼ）と目次と内容の構想について③ 第14回 主張（テーゼ）と目次と内容の構想について④ 第15回 形式面の確認・提出の要領について			
＜準備学習等の指示＞ 最大限の時間と能力とを傾注すること。			
＜テキスト＞ 特になし			
＜参考書・参考資料等＞ 特になし			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 発表による。			

組織神学専攻・歴史神学関係			
教理史演習Ⅰ a		棚村 重行	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件> 組織神学分野専攻者の履修が望ましい。	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 「洗礼、聖餐、教会と職務－中世・宗教改革から現代まで」			
<到達目標> 主題についての現代神学的学びの後、第一次史料を読みながら、各時代の諸教理を検討し、それらの現代的意義を論じる。			
<授業の概要> 前期では「洗礼と聖餐」の教理の発展を扱う。先ず WCC の「リマ文書」の洗礼と聖餐の合意を学ぶ。中世・宗教改革時代から近代の諸教派、日本基督教団の信仰告白や礼拝式文に表現された教理を検討する。			
<履修条件> 特にない。			
<授業計画> 第1回 コースの紹介。履修者との導入討議 第2回 発表（一） 「リマ文書」の「洗礼」について。（学生2～3名） 第3回 発表（二） 「リマ文書」の「聖餐」について。（学生2～3名） 第4回 資料研究（一） 中世の洗礼と聖餐論1（第四ラテラノ公会議、その他公式教令文書） 第5回 資料研究（二） 同上 2（枢機卿カジェタン、S. プリエリアス、C. ヘーン） 第6回 資料研究（三） 宗教改革の洗礼と聖餐論1（ルターとルター派の「一致信条書」他） 第7回 資料研究（四） 同上 2（ツヴィングリ、布林ガーと「第二スイス信仰告白」） 第8回 資料研究（五） 同上 3（カルヴァンとジュネーヴの諸信仰告白。「ハイデルベルク信仰問答」） 第9回 資料研究（六） 同上 4（イングランド教会の「三十九箇条」その他） 第10回 資料研究（七） 同上 5（再洗礼派および関連諸信仰宣言） 第11回 資料研究（八） 同上 6（トレント公会議およびその後の近・現代カトリックの諸教令など） 第12回 資料研究（九） ピューリタニズムの洗礼と聖餐論（「ウェストミンスター信仰告白」、「サボイ宣言」他。） 第13回 資料研究（十） メソディズムの洗礼と聖餐論（J.ウェスレーと「宗教箇条」） 第14回 資料研究（十一） 日本の諸教派の洗礼と聖餐論1（改革－長老派系、会衆派系、メソディスト系、バプテスト系、その他） 第15回 資料研究（十二） 同上 2 日本基督教団の「口語式文」における洗礼と聖餐理解、まとめ。			
<準備学習等の指示> 講義形式で第一次資料を読むので、予習よりも復習を重視すること。			
<テキスト> 『洗礼・聖餐・職務－教会の見える一致をめざして』（教団出版局）。			
<参考書・参考資料等> A.E.マクグラス『宗教改革の思想』（教文館）。その他は、授業中に指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 1. 発表を除き、平生は資料研究センターなので、積極的に質疑応答に参加すること。2. 期末には、各自洗礼と聖餐のテーマについて、興味のある二つの異なる人物、運動の教理を取り上げ、第一次史料を分析し比較・検討せよ。現代神学と実践の立場からそれら教理の意義をレポートで論ぜよ。（分量は、400字詰めで25枚以内）。			

組織神学専攻・歴史神学関係			
教理史演習 I b		棚村 重行	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件> 前期に同じ。	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 「洗礼、聖餐、教会と職務－中世・宗教改革から現代まで」			
<到達目標> 主題についての現代神学的学びの後、第一次史料を読みながら、各時代の諸教理を検討し、それらの現代的意義を論じる。			
<授業の概要> 後期では「教会と職務」の教理の発展を扱う。先ず WCC の「リマ文書」等の教会と職務の合意を学ぶ。中世・宗教改革時代から近代の諸教派、そして日本基督教団の信仰告白や礼拝式文に表現された教理を検討する。			
<履修条件> 特になし。			
<授業計画> 第1回 コース紹介。履修者との導入討議。 第2回 発表（一） 「教会」についての現代の教理論文を読む。 第3回 発表（二） 「リマ文書」の「職務」について。（学生3～4名） 第4回 資料研究（一） 中世の教会と職務論1（中世の教会と職務への公式教令文書） 第5回 資料研究（二） 同上 2（トマス・アキナス、ヤン・フス、教皇ピウス二世等） 第6回 資料研究（三） 宗教改革の教会と職務論1（ルターとルター派の「一致信条書」他） 第7回 資料研究（四） 同上 2（ツヴィングリ、布林ガーと「第二スイス信仰告白」） 第8回 資料研究（五） 同上 3（カルヴァンとジュネーヴの諸信仰告白、「ハイデルベルク信仰問答」） 第9回 資料研究（六） 同上 4（イングランド教会の「三十九箇条」その他） 第10回 資料研究（七） 同上 5（再洗礼派および関連諸信仰宣言） 第11回 資料研究（八） 同上 6（トレント公会議およびその後の近・現代のカトリックの諸教令など） 第12回 資料研究（九） プューリタニズムの教会と職務論（「ウェストミンスター信仰告白」、「サボイ宣言」） 第13回 資料研究（十） メソディズムの教会と職務論（J.ウェスレーと「宗教箇条」） 第14回 資料研究（十一） 日本の諸教派の教会と職務論1（改革－長老派系、会衆派系、メソヂスト系、バプテスト系、その他） 第15回 資料研究（十二） 同上 2 日本基督教団の「口語式文」における教会と職務理解、まとめ。			
<準備学習等の指示> 講義形式で第一次資料を読むので、予習よりも復習を重視すること。			
<テキスト> 『洗礼・聖餐・職務－教会の見える一致をめざして』（教団出版局）。			
<参考書・参考資料等> A.E.マクグラース『宗教改革の思想』（教文館）。他は授業中に指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 前期に同じ。			

組織神学専攻・歴史神学関係			
教会史特講Ⅰa		棚村 重行	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞ 通年で履修することが望ましい。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 「英米日・福音主義の歴史—神学・信仰復興・教会形成」			
＜到達目標＞ 履修者が、英米日の教会関係史のコンテキストにおいて、17 世紀～20 世紀の主要な信仰復興・教会形成の福音主義神学にかんする第一次史料テキストを読み、歴史洞察を深めることを目指す。以上の目標を前期課程の受講者の期末論文のテーマと関連づけて理解し、展開してゆく応用力の発揮を、レポートで立証する。			
＜授業の概要＞ 前期では、最初に日本の「福音主義の歴史」研究の批評を行う。その上で「国際教会関係史」の観点を提起し、17～19 世紀前半（1650-1860）までの英米のピューリタニズム移植、第一次、第二次大覚醒運動期の福音主義神学と信仰復興運動論、教会形成史について、講義と史料分析を行う。			
＜履修条件＞ 現代・近代プロテスタント神学思想の基本的な知識、あるいは英米教会史・神学思想史などへのある程度の関心と素養が必要である。			
＜授業計画＞ 第1回：コース紹介。導入講義：日本の「福音主義」「福音主義の歴史」研究の批評（佐藤敏、古屋、青木他） 第2回：講義（一）：アメリカ教会史と神学思想史論の吟味：F. ボンヘッファー、W. G. マックラクリン他。 第3回：史料分析（一）：17～18 世紀「ピューリタン大覚醒」（T. フッカー）と英国メソジズム（ウェスレー）。 第4回：講義（二）：18 世紀北米における「第一次大覚醒運動」（1730～1760）植民地時代の三大教派の出現。 第5回：史料分析（二）：J. エドワーズ（1）：「[ニューイングランド信仰復興の忠実な報告] 他。 第6回：史料分析（三）：J. エドワーズ（2）：「信仰復興についての幾つかの考察」他。 第7回：講義（三）：18 世紀北米のメソジズム神学、信仰復興、教会形成：「宗教箇条」、A. クラーク等。 第8回：講義（四）：19 世紀前半の「第二次大覚醒運動」（1800～1830）開拓時代の三大教派成長。 第9回：史料分析（四）：19 世紀前半の新派カルヴァン主義神学の誕生：N. W. テイラー、L. ビーチャー等。 第10回：史料分析（五）：C. G. フィニー（1）：回心についての説教、「[組織神学] から。 第11回：史料分析（六）：C. G. フィニー（2）：「宗教の復興とは何か？」 第12回：史料分析（七）：長老派内の新派カルヴァン主義：A. バーンズ 「救いの道」 第13回：史料分析（五）：メソジストの神学、信仰復興、教会形成：P. カートライト、D. D. ウィードン。 第14回：講義（五）：幕末開国期日本：改革派-長老派-会衆派型およびメソジスト型「二つの福音」問題 第15回：講義（六）：若き植村正久、本多庸一：福音主義神学、信仰復興、教会形成。FD 実施。			
＜準備学習等の指示＞ テキストの予習と復習が大切である。そのために、とくに予習に力を入れ、授業中の議論を準備すること。			
＜テキスト＞ ①W. G. McLoughlin, <i>The American Evangelicals, 1800-1900</i> , Harper and Low, 1968(コピー本で配布) ②D. A. Sweeney, <i>The American Evangelical Story</i> , Baker, 2005. (部分的にコピー資料として配布)。			
＜参考書・参考資料等＞ 授業中に追って紹介する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 前期で扱ったテーマを一つ取り上げ、それに関連した重要な第一次史料を批判的に分析し自分の解釈にもとづくレポートを作成し、提出する。分量は 400 字詰め原稿用紙に換算して 20－25 枚以内。			

組織神学専攻・歴史神学関係			
教会史特講 I b		棚村 重行	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件> 通年で履修することが望ましい。	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 「英米日・福音主義の歴史―神学・信仰復興・教会形成」			
<到達目標> 英米日の教会関係史のコンテクストにおいて、17 世紀～20 世紀の主要な信仰復興・教会形成の福音主義神学の第一次史料テキストを読み、歴史洞察を深める以上の目標を、前期課程の受講者の期末論文のテーマと関連づけて理解し、展開してゆく応用力の発揮を、レポートで立証する。			
<授業の概要> 後期では、最初に日本の「福音主義の歴史」研究の批評を行う。その上で「国際教会関係史」の観点を確立し、19 世紀後半～20 世紀後半（1865-2010）までの米日の第三次、第四次大覚醒運動期の福音主義神学と信仰復興運動論、教会形成史について講義と史料分析を行う。			
<履修条件> 前期に同じ。			
<授業計画> 第1回：コースの紹介。講義（一）「マックラクリンの北米大覚醒運動史」のおさらい 第2回： 講義（二）：19 世紀後半の北米神学の諸相：南北戦争以後の北米の社会と宗教の変貌（T.L. スミス） 第3回：史料分析（一）：19 世紀後半の「第三次大覚醒運動」（1870～1920）「都市の信仰復興」について 第4回：史料分析（二）： D.L. ムーディー（1）：ムーディーの諸説教にみる福音主義神学と教会 第5回：史料分析（三）： D.L. ムーディー（2）：彼の信仰復興論「教会に行かぬ人に福音をどう届けるか？」 第6回：講義（三）：20 世紀初頭の日本の「大挙伝道」および「神の国」運動：本多庸一、植村正久、賀川豊彦 第7回：史料分析（四）：20 世紀前半の第一次世界大戦後の北米の「近代主義」対「根本主義」論争 第8回：講義（四）：A.J. シンプソン：『四重の福音』；A.J. ゴードン『み霊の務め』 第9回：史料分析（五）：日本における神学の変貌：中田重治のホーリネス神学と逢坂元吉郎 の高教会神学 第10回：講義（五）：20 世紀後半の「第四次大覚醒〔戦後信仰復興〕運動」（1950～1990?） 第11回：史料分析（六）：ビリー・グラハム（1）：略歴と神学諸テーマ（啓示、創造と墮罪、贖罪） 第12回：史料分析（七）：ビリー・グラハム（2）：諸テーマ（救済、教会、説教と聖礼典、終末論） 第13回：講義（六）：第二次世界大戦後日本における「戦後信仰復興運動」の神学、信仰復興、教会形成。 第14回：講義（七）：1980 年代後の英米日の福音主義諸派の動向：北米の「宗教的右派」、「福音派」の動向。 第15回：総合討論：通年の学びからみた「福音主義」とその歴史の総括。FD 実施。			
<準備学習等の指示> 前期に同じ。			
<テキスト> ①W. G. McLoughlin, <i>The American Evangelicals, 1800-1900</i> , Harper and Low, 1968(コピー本で配布) ② D.A. Sweeney, <i>The American Evangelical Story</i> , Baker, 2005.（部分的にコピー資料として配布）。			
<参考書・参考資料等> 授業の中で、教員が追って指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 後期で扱ったテーマを一つ取り上げ、それに関連した重要な第一次史料を批判的に分析し自分の解釈にもとづくレポートを作成せよ。分量は 400 字詰め原稿用紙に換算して 20－25 枚以内。			

組織神学専攻・歴史神学関係			
修士論文指導演習 歴史神学Ⅰ		棚村 重行	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞ 歴史神学専攻者	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 歴史神学の研究と論文作成の技法を習得する。			
＜到達目標＞ 上に同じ。			
＜授業の概要＞ 後期のセミナーでは、前半は下記のテキストを読み、研究や論文作成の技法を学ぶ。後半では、各自の研究テーマについて中間報告を一回行い、学期末には研究レポートを作成、提出する。			
＜履修条件＞ 歴史神学専攻の大学院修士1年次生を対象とする。			
＜授業計画＞ 第1回 コースの紹介。各自の研究テーマの紹介。 第2回 導入講義「歴史神学とはなにか？」 第3回 発表（一） 澤田『論文の書き方』第一章 第4回 発表（二） 上記テキスト、第二章 第5回 発表（三） 同上、第三章 第6回 発表（四） 同上、第四章 第7回 発表（五） 同上、第五章 第8回 発表（六） 同上、第六章 第9回 発表（七） 同上、第七章 第10回 発表（八） 同上、第八章 第11回 中間発表（一） 二名 第12回 同上（二） 二名 第13回 同上（三） 二名 第14回 同上（四） 二名 第15回 総合討論、FD実施。			
＜準備学習 等の指示＞ テキストは予め読んでおくこと。			
＜テキスト＞ 澤田昭夫『論文の書き方』、講談社学術文庫、2004年。			
＜参考書・参考資料等＞ J.H. アーノルド『一冊でわかる 歴史』、岩波書店、2006年。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 1. 平生の討論参加の積極性、出席、期末レポートの評価を総合して評点を与える。 2. 期末レポートは、原稿用紙400字詰めに換算して、20～25枚以内で作成し、提出せよ。			

組織神学専攻・歴史神学関係			
修士論文指導演習 歴史神学Ⅱ		棚村 重行	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞ 歴史神学の専攻者。	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 大学院修士課程二年次の学生に開講される修士論文準備コース。			
＜到達目標＞ 上に同じ。			
＜授業の概要＞ 前半では、下記の最新の歴史研究入門書を読む。その後修士論文提出予定者が各自のテーマにもとづき、二回修士論文の中間発表を行う。教師と参加者は、質疑応答やコメントを通して、各自の準備を助ける。			
＜履修条件＞ 原則として歴史神学専攻で修士課程二年次の学生の履修を求める。			
＜授業計画＞ 第1回 コースの紹介と発表の決定。 第2回 導入講義「歴史神学の研究視点」 第3回 歴史学入門テキスト発表（一）、 『一冊でわかる 歴史』 1, 2 章 第4回 同上（二）、同上書 3, 4 章 第5回 同上（三）、同上書 5, 6 章 第6回 同上（四）、同上書、7 章と全体討論。 第7回 第一次発表（一） 二名。とくに論文のテーマや構成、方法論、参考文献など。 第8回 同上（二） 二名発表。 第9回 同上（三） 二名発表。 第10回 同上（四）一～二名発表。 第11回 第二次発表（一） 二名発表。 第12回 同上（二） 二名発表。 第13回 同上（三） 二名発表。 第14回 同上（四） 一～二名発表。 第15回 総合討論。FD 実施。			
＜準備学習等の指示＞ テキストは予め読んで意見をまとめよ。			
＜テキスト＞ J.H. アーノルド『一冊でわかる 歴史』岩波書店、2006 年。（コピーテキストを配布する。）			
＜参考書・参考資料等＞ 後に授業で紹介する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業参加態度、出席、発表の内容など総合して評価を与える。			

組織神学専攻・実践神学関係			
キリスト教教育特講 a		長山 道	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件> 学期ごとの登録可	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校・高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に定める科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> キリスト教教育の古典的な文献を読み、今日の教会や学校における実践に生かすことを目指す。			
<到達目標> 古代の神学書を読み、神学的に考える力を身につける。アウグスティヌスの教育思想の特徴を理解し、現代の課題との関連で考察できるようになる。			
<授業の概要> キリスト教教育の古典的なテキストを精読し、担当者の講義により理解を深め、議論することを通して、今日のキリスト教教育のあり方を考察する。			
<履修条件> 特になし			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 第1章 語る目的 第3回 第2章 一つの記号を他の記号で説明する理由 第4回 第3章 事柄は記号を用いないで伝えられるか 第5回 第4章 記号は記号によって指示されるか 第6回 第5章 相関的な記号 第7回 第6章 自己自身を指し示す記号 第8回 第7章 これまでの論議の要約 第9回 第8章 指し示されたもの（実在）に注意を向ける必然性 第10回 第9章 実在の価値とその認識 第11回 第10章 記号によっては学ばれない 第12回 第11章 言葉によらず、内なる教師によって学ぶ 第13回 第12章 内的光・内的真理 第14回 第13章 言葉は常には語り手の心を語らない 第15回 第14章 教えるのは教師キリストであり、人間の言葉は外から刺激を与え、その補助をするに過ぎない			
<準備学習等の指示> テキストに予め目を通しておくこと。			
<テキスト> アウグスティヌス「教師」『アウグスティヌス著作集 2』教文館、1979 年。担当者が用意する。			
<参考書・参考資料等> アウグスティヌス『教師論』明治図書、1981 年。他は講義中に指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> レポート、議論への貢献度を総合的に評価する。			

組織神学専攻・実践神学関係		
キリスト教教育特講 b	長山 道	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件> 学期ごとの登録可	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校・高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に定める科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<授業のテーマ> 福音主義的キリスト教教育学の代表的な文献を読み、今日の教会における教育に生かすことを目指す。		
<到達目標> 神学書をクリティカルに読みこなす力、神学的に考える力を身につける。キリスト教教育学の根本問題を理解し、現代の課題との関連で考察できるようになる。		
<授業の概要> キリスト教教育学の重要なテキストを精読し、担当者の講義により理解を深め、議論することを通して、今日の教会教育のあり方を考察する。		
<履修条件> 特になし		
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 教会の教育的機能 第3回 教育と神学 第4回 教会教育の歴史 第5回 教会教育の現状 第6回 目標の再設定1：三位一体の教理の意義 第7回 目標の再設定2：道徳主義の「神学的根拠」 第8回 教育計画の立て方1：教会、聖書 第9回 教育計画の立て方2：礼拝、交わり 第10回 カリキュラムにおける聖書1：閉ざされた聖書の秘密 第11回 カリキュラムにおける聖書2：教会学校における聖書 第12回 人間の成長 第13回 クリスマン・ホーム 第14回 教会と公立学校教育 第15回 総括		
<準備学習等の指示> テキストに予め目を通しておくこと。		
<テキスト> J・D・スマート（安村三郎訳）『教会の教育的使命』、日本基督教団出版局、1958年（絶版）。担当者が用意する。		
<参考書・参考資料等> 講義中に適宜指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> レポート、議論への貢献度を総合的に評価する。		

組織神学専攻・実践神学関係			
実践神学演習 a		小泉 健	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 前期は K. バルト、E. トゥルナイゼン『神の言葉の神学の説教学』をテキストとして、説教学について学ぶ。			
＜到達目標＞ 書物を理解することにとどまらず、20 世紀半ばの議論に助けられて、説教について神学的な考察するための基礎を身につける。			
＜授業の概要＞ 毎回発表担当者が割り当てられた箇所についての要約とコメントをし、その上で討論する。			
＜履修条件＞			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 説教の神学をどのように立てるか 第2回 第一部 説教の本質 I さまざまな定義 §1～§5 第3回			

組織神学専攻・実践神学関係			
実践神学演習 b		小泉 健	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 後期は C. メラー編『魂への配慮の歴史 12 第2次世界大戦後の牧会者たち』をテキストとして、牧会について学ぶ			
<到達目標> テキストは一人一人の牧会者の肖像画を描きながら、牧会についての考え方と実践を紹介している。それを受け止めながら、わたしたち自身の牧会の実践のための知恵を得る。			
<授業の概要> 毎回発表担当者が割り当てられた箇所についての要約とコメントをし、その上で、わたしたちの教会における牧会を視野に収めながら討論する。			
<履修条件>			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 「牧会百話」と牧会学 第2回 第1章 ヘルバート・ギルゲンゾーン I 伝記 第3回 承前 II 代表的な言葉、III 感化と評価 第4回 第2章 エードゥアルト・トゥルンアイゼン I 伝記 第5回 承前 II 代表的な言葉、III 感化と評価 第6回 第3章 シュアード・ヒルトナー I 伝記、II 代表的な言葉 第7回 承前 III 感化と評価 第8回 第4章 ヨハネス・ブルス I 伝記 第9回 承前 II 代表的な言葉、III 感化と評価 第10回 第5章 アルブレヒト・ペータース I 伝記 第11回 承前 II 代表的な言葉、III 感化と評価 第12回 第6章 ヘルムート・タケ I 伝記 第13回 承前 II 代表的な言葉、III 感化と評価 第14回 第7章 ロシア正教会の牧会者・長老たち I ロシア長老制との歴史とその霊性 第15回 承前 II 師父アレクサンデルと師父イオアーン			
<準備学習等の指示> 必ず事前にテキストを読み、質問やコメントを用意してくること。			
<テキスト> C. メラー編『魂への配慮の歴史 12 第2次世界大戦後の牧会者たち』日本キリスト教団出版局、2004年。			
<参考書・参考資料等> E. トゥルンアイゼン『牧会学 I』日本キリスト教団出版局、1961年（オンデマンド） スワード・ヒルトナー『牧会の神学』聖文舎、1975年（絶版）			
<学生に対する評価（方法・基準）> 発表、討論への参加によって評価する。			

組織神学専攻・実践神学関係		
キリスト教教育特研 a キリスト教教育特研	朴 憲郁	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件> なし	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<授業のテーマ> 日本プロテスタント史における宗教教育論の再考		
<到達目標> 哲学、神学、聖書学、政治学、歴史学におけるアウグスティヌス研究は盛んであるが、彼の教育学的貢献はあまり注目されていない。しかし彼は何よりも生涯を通じて教師であった。このたびアウグスティヌスの教育論を学ぶことによって、宗教教育の基本的思考を習得することを目指す。		
<授業の概要> 最初にアウグスティヌスの回心前後の教育活動を概観する。その後、回心後の彼の教育原理を三つの観点から取り上げる。その第一は<神の似姿>を基本とするキリスト教的人間観、第二は教授法（説教論、教師と学習者との関係など）、第三は教授内容（神の制定による自由学芸の神的起源をも考察）である。それらを順次学んでいく。		
<履修条件> 特になし		
<授業計画> 第1回 教師アウグスティヌスの生い立ち 第2回 回心前の教育活動（タガステ、カルタゴ、ローマ、ミラノにおいて） 第3回 回心後の教育活動 その1：回心と共同生活 第4回 回心後の教育活動 その2：ローマ滞在とタガステでの修道生活 第5回 修道生活と教育活動 第6回 洗礼志願者教育 第7回 教育と説教 第8回 人間観と教育 第9回 教授と学習（『教師論』を中心に） 第10回 教授（説教）法—その特徴と意義 第11回 教授（説教）法—芸術的素材による手法 第12回 記憶と学習 第13回 自由学芸と哲学 第14回 自由学芸と聖書解釈（『キリスト教の教え』を中心に） 第15回 全体的総括		
<準備学習等の指示> 次週取り扱う箇所を各自が事前に読み、授業時の学習や討論への参加に役立たせる。随時、受講生が発表する。		
<テキスト> 岩村清太、『アウグスティヌスにおける教育』、創文社、2001年。各自で購入するが、それが困難な場合、随時プリント配布する。		
<参考書・参考資料等> ・茂泉昭男、『アウグスティヌス研究』、教文館、1987年 ・谷隆一郎、『アウグスティヌスの哲学』、創文社、1994年 ・金子晴勇、『アウグスティヌスとその時代』、知泉書館、2004年、その他		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業時のレポートや授業時の議論への参加度などを評価する。2/3以上の出席によって評価の対象とする。		

組織神学専攻・実践神学関係			
キリスト教教育特研 b		朴 憲郁	<担当形態> 単独
後期・2 単位		<登録条件> なし	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 現代キリスト教教育学の使命と課題			
<到達目標> キリスト教教育の中心に据えられる教会教育を学として確立した教会教育学を中心にして、現代のキリスト教教育学の動向を把握し、その使命と課題を把握する			
<授業の概要> 授業の第一段階で、各種の教会教育論を統合して学的領域として確立した教会教育学を講義する。その中心にある洗礼志願者教育の理論と動向を見極めつつ、教会のディダケーの職務における諸次元的広がり进行考察していく。授業の第二段階で、20 世紀後半の北米における代表的な宗教教育論の書物を一緒に読んで、基本的な知識に習熟し、その後、近年注目されてきたナラティブ・ペダゴジーを把握し、論じていく。			
<履修条件> 特になし			
<授業計画> 第1 回 教会教育学(Gemeindepädagogik)とは何か（講義：問題意識と背景） 第2 回 教会教育学とは何か（講義：その展開） 第3 回 J.D.スマート、『教会の教育的使命』（教会の教育的職能から目標設定まで） 第4 回 J.D.スマート、『教会の教育的使命』（教育計画のたて方から公立学校教育まで） 第5 回 L.M.ラッセル、『キリスト教教育の革新』（第一部「神の愛の賜物」から第二部「証人共同体」まで） 第6 回 L.M.ラッセル、『キリスト教教育の革新』（第三部「対話」から第五部「喜びの祝宴」まで） 第7 回 J.H.ウェスターホフ、『子どもの信仰と教会』（伝統的モデルから信仰者の共同体まで） 第8 回 J.H.ウェスターホフ、『子どもの信仰と教会』（信仰の展開から未来への展望まで） 第9 回 ジャック・L.シーモア編、『キリスト教教育の現代的展開』（シーモアからフォスターまで） 第10 回 ジャック・L.シーモア編、『キリスト教教育の現代的展開』（ミラーからジャック・シーモアまで） 第11 回 ナラティブ・ペダゴジーとは（教育学的背景から神学的背景まで） 第12 回 ナラティブ・ペダゴジーとは（心理学的背景） 第13 回 ナラティブ・ペダゴジーとは（宗教教育学との関連） 第14 回 J.W.ファウラーの信仰発達論との対論 第15 回 教会教育学の展望			
<準備学習等の指示> 履修者には発表の機会もあるが、常に当該箇所を事前に読んで、議論に積極的に加わっていただく。			
<テキスト> 朴憲郁、「教会教育の出現とその特性」、『キリスト教教育論集』第20 号、2012 年3 月、日本キリスト教教育学会、1~15 頁、（担当教師が抜き刷り配布）。スマートからシーモアまでの各著書（各自購入または担当教師がプリント配布）			
<参考書・参考資料等> ・J.D.スマート、『教会の教育的使命』、(原著 1954 年)1958 年、日本基督教団出版部 ・ジャック・L.シーモア編、『キリスト教教育の現代的展開』、(原著 1982 年)1987 年、新教出版社			
<学生に対する評価（方法・基準）> 2/3 以上の出席を評価の前提とする。発表と討論での発言などの参加度、及び提出レポートで評価する。			

組織神学専攻・実践神学関係			
臨床牧会教育 a		ウェイン・ジャンセン	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 病院での実習により、牧会的な心得を身につけること。			
＜到達目標＞ 自分の牧会者像を明確にする。			
＜授業の概要＞ 吉祥寺病院（精神科）を実習のフィールドとして、医師、看護師、ソーシャルワーカー等の協力を得、患者との面接を行い、講師のスーパーヴィジョンを受けて、実際にカウンセリングを学ぶ。			
＜履修条件＞ 講義は登録者2人以上から6人未満で成立する。			
＜授業計画＞ ＊オリエンテーション ＊院長による精神病理の講義。病院見学。 ＊病棟で患者と面接を行い、ケアを与えることを学ぶ。 ＊面接記録をスーパーヴァイザー（担当教員）に提出し、コメントをうける。 ＊各学生によるケース提出とディスカッションを行う。 第1回から第15回まで、様々な牧会ケアテーマで学び、自分の牧会者像を明確にする。			
＜準備学習等の指示＞ 遅刻をしないこと。 休まないこと。			
＜テキスト＞ 必要に応じて配る。			
＜参考書・参考資料等＞ 聖書			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 実習の参加度によって評価する。 期末面談によって評価する。			

組織神学専攻・実践神学関係		
臨床牧会教育 b	ウェイン・ジャンセン	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
＜授業のテーマ＞ 病院での実習により、牧会的な心得を身につけること。		
＜到達目標＞ 自分の牧会者像を明確にする。		
＜授業の概要＞ 吉祥寺病院（精神科）を実習のフィールドとして、医師、看護師、ソーシャルワーカー等の協力を得、患者との面接を行い、講師のスーパーヴィジョンを受けて、实际的にカウンセリングを学ぶ。		
＜履修条件＞ 臨床牧会教育 a を終えていること。		
＜授業計画＞ ＊各回、各病棟におもむき、患者と出会い、カウンセリングを行う。 ＊面接記録（逐語記録）をつくり、スーパーヴァイザー（担当教員）に提出し、コメントを得、話し合いをする。 ＊各自のケース・レポートをし、ケース・スタディをする。 第1回から第15回まで、様々な牧会ケアテーマで学び、自分の牧会者像を明確にする。		
＜準備学習等の指示＞ 遅刻をしないこと。 休まないこと。		
＜テキスト＞ 必要に応じて配る。		
＜参考書・参考資料等＞ 聖書		
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 実習の参加度によって評価する。 期末面談によって評価する。		

専攻間共同科目			
日本伝道論演習 a		芳賀 力	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞通年で登録することが望ましい。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 日本伝道の課題について具体的に考え、共に実践的な作業をする。			
＜到達目標＞ その遂行のためのストラテジーを、現代人へのメッセージとして明確に発信できるようにする。			
＜授業の概要＞ 毎回、最初に問題提起のプレゼンテーションを行う。それに対するリスポンスの時間を設け、オープン・ディスカッションをする。アピール文をメッセージとして作成し、批評しあい、共有する。			
＜履修条件＞ 特に専攻にこだわらない。			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション：二階建論、日本人の共同幻想 第2回 戦後のセキュラリズム(1) 無宗教的世俗化 第3回 戦後のセキュラリズム(2) 世俗的疑似宗教化 第4回 功利的個人主義と聖書のナラティブ 第5回 使徒的共同体の形成、都市と地方、メディア支配の時代 第6回 教育を通しての伝道 第7回 熟年層への伝道、試練と試み 第8回 高齢者への伝道 第9回 本地垂迹説とパウロの伝道、多元主義と特定主義 第10回 底流としてのアニミズム、自然主義 第11回 平安密教系の加持祈祷、俗信と創造信仰 第12回 鎌倉浄土系の彼岸往生、祖先崇拜と終末論、死と希望 第13回 鎌倉禅仏教系の無の思想、仏教とキリスト教 第14回 明治のナショナリズム、現代のナショナリズムとグローバリズム 第15回 総括			
＜準備学習等の指示＞ プレゼンテーションを踏まえ、手紙や修養会レジュメ、黙想など、短い文章をホームワークとして作成する。			
＜テキスト＞ 拙著『使徒的共同体』教文館、2004年。			
＜参考書・参考資料等＞ 毎回レジュメを用意する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業中の活発な討論、およびホームワークの発表をもって評価する。			

専攻間共同科目			
日本伝道論演習 b		芳賀 力	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞通年で登録することが望ましい。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 日本伝道の課題について具体的に考え、共に実践的な作業をする。			
＜到達目標＞ その遂行のためのストラテジーを、現代人へのメッセージとして明確に発信できるようにする。			
＜授業の概要＞ 毎回、最初に問題提起のプレゼンテーションを行う。それに対するリスポンスの時間を設け、オープン・ディスカッションをする。アピール文をメッセージとして作成し、批評しあい、共有する。			
＜履修条件＞ 特に専攻にこだわらない。			
＜授業計画＞ 第1回 福音的公同教会の伝道力 第2回 現代における救済概念の変質 第3回 罪と疎外 第4回 救済の語りの諸系譜(1) 犠牲のモチーフ a 第5回 犠牲のモチーフ b 第6回 救済の語りの諸系譜(2) 贖いのモチーフ a 第7回 贖いのモチーフ b 第8回 救済の語りの諸系譜(3) 償いのモチーフ a 第9回 償いのモチーフ b 第10回 救済の語りの諸系譜(4) 裁きのモチーフ a 第11回 裁きのモチーフ b 第12回 信仰の言語 第13回 愛の言語 第14回 希望の言語 第15回 総括			
＜準備学習等の指示＞ プレゼンテーションを踏まえ、現代人にアピールする神学的トラクトの文章をホームワークとして作成する。			
＜テキスト＞ 拙著『救済の物語』日本キリスト教団出版局、1997年。			
＜参考書・参考資料等＞ 毎回レジュメを用意する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業中の活発な討論、およびホームワークの発表をもって評価する。			

専攻間共同科目			
アジア伝道論演習 a		朴 憲郁	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞ なし	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 東南アジアにおけるキリスト教伝道			
＜到達目標＞ キリスト教は神学理論として研究され得るが、歴史の中に働く神の啓示たるイエス・キリストの福音の力として、実践的行為において存続する。それは、キリスト共同体形成と福音伝道の形をとる。教會的伝道とは何かを、伝道理論の歴史を丁寧に取り上げながら整理して、アジア伝道論の基礎を構築していく。			
＜授業の概要＞ 上記の目標を達成する手立てとして、いささか古い文献ではあるが堅実な教會的伝道論の一書をテキストとする。宗教改革時代から現代までの伝道論を＜伝道、教会、形成と革新、信仰告白＞といったキーワードを中心に考察していく。その都度関連する項目につき、ボーシュの宣教論を噛み合わせていく。			
＜履修条件＞ 特になし			
＜授業計画＞ 第1回： 伝道（宣教）学とは何か 第2回： アジアにおけるキリスト教－文化的、伝道論的視点から 第3回： 宗教改革の神学と伝道（ルター、正統主義、敬虔主義の立場） 第4回： ルター神学の宣教論的評価－律法と福音の視点－ 第5回： 伝道における教会－伝道か教会か－ 第6回： 自覚的教会論の台頭 第7回： 伝道における教会の革新（教会、伝道、信徒） 第8回： 包括的伝道 第9回： 包括的伝道の意義－人間理解、教会理解－ 第10回： 伝道における教会形成 第11回： 教会のミニストリー 第12回： ケリュグマー説教を中心に－ 第13回： 信仰告白と伝道－宣教論的意義 第14回： 伝道のわざにおける信仰告白 第15回： 包括的な把握－ボーシュ的展開を視野に－			
＜準備学習等の指示＞ 講義をするが、受講者もテーマに従って発表していただく。次週授業で扱うテキスト箇所は皆が事前に読んで予備知識をもち、議論に参加できるよう心がけること。			
＜テキスト＞ 石田順朗、『教会の伝道』聖文舎、1972年。絶版で入手が困難であるため、担当講師がプリントで準備する。			
＜参考書・参考資料等＞ ・D.ボーシュ著、東京ミッション研究所 訳、『宣教のパラダイム転換』上(1999)、下(2001)、新教出版社 ・朴憲郁、「日本プロテスタント伝道の一考察－アジア伝道の視点から－」、『神学』、71号、2009年12月。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業時の発表、参加度、学期末レポート（5000字～6000程度）などによって評価する。 出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。			

専攻間共同科目			
アジア伝道論演習 b		朴 憲郁	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件> なし	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 今日の伝道(宣教)学			
<到達目標> アジア諸国への福音伝道は、誰がどのような展望と使命によって推進されたのか、また伝道された非キリスト教諸国の人々は独自の文化・宗教・言語圏の中でどのように受容し、反応したのかを知る。それをこのたびは、20世紀後半の代表的宣教学者の伝道理解を学ぶ。			
<授業の概要> 伝道(宣教)学とは何かを序論として解説した後、ヒンドゥー教国のインドで長年宣教活動にたずさわったイギリス出身の宣教師、レスリー・ニュービギンの「宣教学」を一つ一つ学ぶ。			
<履修条件> 特になし			
<授業計画> 第1回： 序説1－伝道（宣教）学とは何か－ 第2回： 序説2（その1）－キリスト論的三位一体論 第3回： 序説2（その2）－キリスト論的三位一体論における諸宗教との対話－ 第4回： 序説3－韓国におけるキリスト論的三位一論の展開の試みとその批判 （以下、テキストに従って、5～14まで学生発表と講義） 第5回： 議論の背景 第6回： 権威の問題 第7回： 三位一体の神の宣教 第8回： 御父の御国を宣べ伝えること－信仰としての宣教－ 第9回： 御子の生を分かち合うこと－愛としての宣教－ 第10回： 聖霊の証しを担うこと－希望としての宣教－ 第11回： 福音と世界の歴史 第12回： 神の正義のための行動としての説教 第13回： 教会成長、改宗、文化 第14回： 諸宗教の中の福音 第15回： アジア伝道の反省と展望（講義）			
<準備学習等の指示> 指定テキストの中から、毎授業で扱う範囲の箇所を事前に読んで理解を深めておくこと。随時発表もしていただく。			
<テキスト> レスリー・ニュービギン、『宣教学入門』、鈴木脩平訳、日本キリスト教団出版局編、2010年。各自で入手すること。			
<参考書・参考資料等> 1. 朴憲郁(Heon-Wook Park)、Perspective of the Northeast Asian Mission from the Viewpoint of Pauline Theology - Focused on Christology -, 『神学』72号、東京神学大学神学会、2010年、教文館、143～166頁			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業時の発表、参加度、学期末レポート（5000～6000字程度）などによって評価する。 出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。			

実践神学研修課程			
説教学演習Ⅰ		小泉 健	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 説教の本質を問う説教学的議論に触れつつ、説教作成の方法を吟味し学ぶ。			
＜到達目標＞ 説教作成の方法を職人芸のようにして身につけるだけではなく、つねに説教学的な反省と結びつけながら批判的に習得し、説教者として自己研鑽していくための土台を得ること。			
＜授業の概要＞ 説教準備の一つ一つの段階の意味について考察しつつ、最初の黙想から説教行為までの実際に取り組む。			
＜履修条件＞			
＜授業計画＞ 第１回 説教と聖書、説教テキストの朗読 第２回 黙想とは何か 第３回 説教学の課題 課題①第一黙想の提出 第４回 釈義と説教準備 第５回 歴史的方法と正典、礼拝における「聖書」、釈義とは何か 第６回 説教学的な聖書の解釈、「解釈と適用」の問題 課題②釈義の提出 第７回 説教黙想とは何か 第８回 釈義と教理、説教と教義学 第９回 説教における説教者 課題③説教黙想の提出 第１０回 会衆をめぐる黙想 第１１回 キリストの物語とわたしたちの生活 第１２回 説教と救済史、終末をめぐる黙想 課題④第二の説教黙想の提出 第１３回 説教の構造と構成 第１４回 説教の始め方と終わり方 第１５回 説教の演述 課題⑤説教原稿の提出			
＜準備学習等の指示＞ 聖書全巻を通読しておくこと。日々の祈りと黙想の生活を確立すること。			
＜テキスト＞ 聖書			
＜参考書・参考資料等＞ R. ボーレン『説教学Ⅰ』『説教学Ⅱ』日本基督教団出版局（Ⅱはオンデマンド） その他については、テーマごとに教室で指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 説教作成の諸段階で、その都度レポートを提出する。			

実践神学研修課程			
説教学演習Ⅱ		小泉 健	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 説教学の基本を学び、会衆席の説教学として実際になされた説教を分析する方法を身につける。			
＜到達目標＞ 多様な説教に触れて説教理解を拡大し、説教を享受する力を磨くこと。			
＜授業の概要＞ 説教分析の方法論を明確にし、実際になされた説教を取り上げて、説教分析に実際に取り組む。			
＜履修条件＞			
＜授業計画＞ 第1回 会衆席の説教学 第2回 分析（1）植村正久の説教を読む 第3回 なぜ説教を「分析」するのか？——説教分析論 第4回 分析（2）竹森満佐一の説教を読む 第5回 どこで心が燃えたか？——印象批評と第一印象論 第6回 分析（3）加藤常昭の説教を読む 第7回 その説教は何をしているのか？——説教の構造と構成をめぐる問題 第8回 分析（4）マルティン・ルーサー・キングの説教を読む 第9回 説教における「わたし」は何者か？——説教における説教者をめぐる問題 第10回 分析（5）カール・バルトの説教を読む 第11回 だれに向かって語っているのか？——説教における聞き手をめぐる問題 第12回 分析（6）ヴァルター・リュティの説教を読む 第13回 その説教の「テキスト」は何か？——説教と聖書テキストをめぐる問題 第14回 分析（7）ルドルフ・ボーレンの説教を読む 第15回 神の御声が聞こえてきたか？——説教における神の名 ＊さまざまな説教者の説教を読むことを予定しているが、受講者の希望により、受講者の説教を取り上げることも可能である。 ＊希望があれば、自由参加による説教批評のクラスを行う。			
＜準備学習等の指示＞ 聖書全巻の通読を続けること。毎回配布される論文、説教を十分読んで準備すること。			
＜テキスト＞ 授業時に、次回読む論文または説教を配布する。欠席した場合は取りにくること。			
＜参考書・参考資料等＞ 加藤常昭『説教批判・説教分析』教文館、2008年。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 発表と授業への参加度、レポートによって評価する。			

実践神学研修課程			
説教学演習Ⅲ		芳賀 力	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位		＜登録条件＞ 修士論文を提出し、卒業に備えている者	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ テキストの釈義から黙想を経て説教を準備し、実際に説教するに至るまでの過程を体験する。			
＜到達目標＞ 説教者として立つための基本を身に着ける。また相互に説教批評を行い、説教者としての自己吟味の能力をも養う。			
＜授業の概要＞ 担当者を決め、指定された聖書テキストに従って説教を準備し、実際にチャペルで説教する。			
＜履修条件＞ 修士論文を提出し、受理されて、博士課程前期課程修了見込みである者。			
＜授業計画＞ 第１回 オリエンテーション。説教とはどうあるべきか。その弁証法的構造について学ぶ。 第２回 創世記 ２８：１０－１９ 第３回 申命記 ８：１－１０ 第４回 詩編 ２３：１－６ 第５回 イザヤ書 ６：１－８ 第６回 ホセア書 ６：１－６ 第７回 マタイによる福音書 ２０：１－１６ 第８回 マルコによる福音書 ６：３０－４４ 第９回 ルカによる福音書 １６：１－１３ 第１０回 ヨハネによる福音書 ３：１－１０ 第１１回 ローマの信徒への手紙 ５：１－１１ 第１２回 コリントの信徒への手紙二 ４：７－１５ 第１３回 エフェソの信徒への手紙 １：３－１０ 第１４回 ヨハネの手紙一 ３：１－３ 第１５回 総括			
＜準備学習等の指示＞ 担当箇所の準備を入念にすること。また他の人の説教を聞いて、適切な批評をし、共に学び合うこと。			
＜テキスト＞ 新共同訳聖書			
＜参考書・参考資料等＞ 該当箇所の注解書、黙想集、説教集			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 演習に積極的に参加し発言する姿勢が問われる。その上で説教実習の内容を評価する。			

実践神学研修課程		
礼拝学演習	小泉 健	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<授業のテーマ> 礼拝学の基本、特に教会の礼拝を司る者が身につけるべき礼拝学的思考の特質を学ぶ。		
<到達目標> 教会や学校で礼拝を整え、奉仕者を指導し、結婚式、葬式等の諸式を執り行うことができるようになること。		
<授業の概要> 主日礼拝の主要な要素や、主日礼拝以外の諸礼拝、結婚式、葬儀などについて、毎回テーマを定め、参加者の発表を通して学ぶ。		
<履修条件>		
<授業計画> 第1回 礼拝学的思考の特質について 第2回 聖書における礼拝 第3回 宗教改革の礼拝 第4回 典礼の刷新、東方教会の奉神礼 第5回 現代の礼拝、礼拝改革 第6回 礼拝式と祈祷、祝祷 第7回 賛美、礼拝音楽 第8回 献金・奉献、礼拝奉仕 第9回 洗礼式、幼児洗礼と幼児祝福 第10回 聖餐礼典 第11回 結婚式・婚約式 第12回 葬儀 第13回 礼拝堂、礼拝堂の使用 第14回 教会暦と聖書日課 第15回 教会学校の礼拝、学校礼拝		
<準備学習等の指示> 発表者だけでなく、参加者全員が自分なりの課題や意見を整理して演習に臨むこと。		
<テキスト> 授業時に毎回資料を配布する。		
<参考書・参考資料等> 由木康『礼拝学概論』新教出版社、2011年。 W. ナーゲル『キリスト教礼拝史』教文館、1998年（オンデマンド）。 その他については第1回の授業時にテーマごとに紹介する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 発表と授業への参加度によって評価する。		

実践神学研修課程			
牧会学演習		小泉 健	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 実践神学を牧師学としてとらえ、牧師が身につけるべき基本を学ぶ。			
＜到達目標＞ さまざまな牧会の場面において、ふさわしい対応ができる基礎を得ること。ただ一つの正解があるわけではなく、その都度の対応が求められるが、それを神学的に反省する力を身につけること。			
＜授業の概要＞ 牧師が担うべき教務、牧師が実践活動を行う場面を一つずつ取り上げ、参加者の発表を通して必要な知識と方法を身につける。			
＜履修条件＞			
＜授業計画＞ 第１回 牧師学としての実践神学 第２回 召命と准允・按手、「牧師職」、赴任と離任、招聘制度と牧会 第３回 教会でのふるまい、教会での人間関係 第４回 告解・面談・訪問 第５回 結婚と離婚、同性愛 第６回 キリスト者の家庭と信仰の継承 第７回 病者の牧会、病床訪問 第８回 精神障がい者の牧会、牧会カウンセリング 第９回 高齢者の牧会 第１０回 葬儀とその周辺 第１１回 洗礼への導きと受洗準備、受洗後教育 第１２回 聖餐と牧会 第１３回 教会戒規 第１４回 教会会議（教会総会、役員会）と議長職 第１５回 全体教会と個教会、教会の制度、教会共同体の形成			
＜準備学習等の指示＞ 発表者だけでなく、参加者全員が自分なりの課題や意見を整理して演習に臨むこと。			
＜テキスト＞ 授業時に毎回資料を配布する。			
＜参考書・参考資料等＞ E. トゥルナイゼン『牧会学Ⅰ』『牧会学Ⅱ』日本基督教団出版局、1961、1970年（オンデマンド）。 ウィリアム・ウィリモン『牧師』新教出版社、2007年。 その他については第１回の授業時にテーマごとに紹介する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 発表と授業への参加度によって評価する。			

実践神学研修課程			
総合特別講義		小泉 健	<担当形態> オムニバス
後期・4単位		<登録条件> 修士論文を提出し、2021 年 4 月に教会・学校に赴任する意志の明確な者	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 牧会・伝道上直面する具体的な問題に適切に対応していくために専門家の指導を受ける。			
<到達目標> 牧会上の典型的な問題とその対策を理解し、自分なりに応用していくための基礎を身につける。			
<授業の概要> それぞれ分野の専門家が、テーマごとに二コマを単位として講義を行う。			
<履修条件> これまでの学びを総合する重要な授業なので、原則として全回出席すること。			
<授業計画> 第1回：関川泰寛教授「東京神学大学史Ⅰ」歴史的歩み＝前史 第2回：関川泰寛教授「東京神学大学史Ⅰ」歴史的歩み＝合同神学校以後 第3回：関川泰寛教授「東京神学大学史Ⅱ」日本基督教団関係史（紛争前） 第4回：関川泰寛教授「東京神学大学史Ⅱ」日本基督教団関係史（紛争後） 第5回：山口隆康講師「日本基督教団史Ⅰ」日本基督教団成立前 第6回：山口隆康講師「日本基督教団史Ⅰ」日本基督教団成立後 第7回：長山信夫講師「日本基督教団史Ⅱ」教団史と紛争史の視点 第8回：長山信夫講師「日本基督教団史Ⅱ」「教団紛争」とは何であったか？ 第9回：藤盛勇紀講師「日本基督教団教憲・教規」 第10回：藤盛勇紀講師「各教会規則・宗教法人規則」 第11回：川島隆一講師「部落解放とキリスト教」 第12回：川島隆一講師「部落解放とキリスト教」 第13回：小島誠志講師「地方伝道」 第14回：小島誠志講師「地方伝道」 第15回：増田将平講師「青年伝道」 第16回：増田将平講師「青年伝道」 第17回：山崎忍講師「刑務所伝道」 第18回：山崎忍講師「刑務所伝道」 第19回：春原禎光講師「ITと伝道」 第20回：春原禎光講師「ITと伝道」 第21回：山崎ハコネ講師「高齢者ケアと牧会」 第22回：山崎ハコネ講師「高齢者ケアと牧会」 第23回：篠浦千史講師「障がい者と教会」 第24回：篠浦千史講師「障がい者と教会」 第25回：朴米雄講師「在日コリアン問題」 第26回：朴米雄講師「在日コリアン問題」 第27回：愛澤豊重講師「キリスト教系諸宗団の問題」 第28回：愛澤豊重講師「キリスト教系諸宗団の問題」 第29回：石橋秀雄講師「教会付属幼稚園・保育園（所）の諸問題」 第30回：石橋秀雄講師「教会付属幼稚園・保育園（所）の諸問題」 第31回：棚村重行特任教授「エキュメニズムⅠ（世界のエキュメニズム）」 第32回：棚村重行特任教授「エキュメニズムⅠ（世界のエキュメニズム）」 第33回：朴憲郁特任教授「エキュメニズムⅡ（東アジアのエキュメニズム）」 第34回：朴憲郁特任教授「エキュメニズムⅡ（東アジアのエキュメニズム）」 第35回：野村忠規講師「牧会者の試練とその克服」 第36回：野村忠規講師「牧会者の試練とその克服」 ※講師は予定。当該年度に決定する。			
<準備学習等の指示> 日本基督教団の補教師試験を受験する者は、「補教師試験の過去問題集」に目を通しておくこと。			
<テキスト> 「日本基督教団史」「教務関係書式集」「日本基督教団教憲教規および諸規則」等、講師がその都度指示する。			
<参考書・参考資料等> 担当教員、講師がそれぞれの講義の中で紹介する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 教職セミナーを含む毎回の講義の出席を評価の前提とする。学期末には、牧会にあたってとくに有益であったことをまとめたレポート（約2000字）を作成する。その末尾に今後の総合講義に対する意見も述べる。			